

科 目	社会科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	渡邊 智寛	教員区分	一般教員

教科書	使用しない。適宜資料を配布する。
参考書	準備が必要なものは無い。 授業中に紹介する参考文献や資料を開講期間中に一読することを推奨する。
成績評価	授業内小テスト 30%+定期試験 70% (小テストを実施しない場合は定期試験のみで評価)
留意事項	具体的社会事象を扱う。最新の時事問題を取り上げることもあるため、普段から新聞・テレビ・ネット等を用いてニュースに触れておくことが望ましい。授業内容の一部変更もあり得るが、その際は事前に告知する。

科目の目標	さまざまな社会現象を学際的な視点から読み解く。身近でありながらも普段顧みられることの少ない法や行政制度を、既存の固着化したシステムとしてではなく、生きた人間関係のレベルに引き戻して考える。その他、犯罪者や病者、障害者などを取り巻く問題の検討を通じ、社会保障や公衆衛生についても理解を深める。
授業概要	授業教材としていくつかの映画を用いる (映像の放映はない)。社会現象や社会問題をそれらの映画がどのように扱っているかを参考にすることで、授業理解の助けとする。

日程

回数	授業内容
1	社会科学とは何か——社会科学のアウトライン
2	社会とは何か——集団・組織、フォーマル組織・インフォーマル集団、社会化
3	通過儀礼——その社会的意味、分離→移行→結合のプロセス、死と再生のシンボリズム
4	社会統計——統計資料の読み方
5	現代社会生活と法①——憲法・刑法・刑事訴訟
6	現代社会生活と法②——刑事裁判の問題点
7	裁判員制度①——裁判員制度に関する詳細、市民参加型裁判の種類
8	裁判員制度②——判決・量刑、正当防衛・過剰防衛・執行猶予
9	社会と犯罪①——犯罪をめぐる解釈枠組み
10	社会と犯罪②——社会的排除・包摂
11	ネット社会と監視社会①——ネット犯罪と関連法規
12	ネット社会と監視社会②——監視社会と管理社会
13	社会保障と公衆衛生①——医療保険制度、高齢者介護問題
14	社会保障と公衆衛生②——国家試験関連過去問解説
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	岩坪 弘之	教員区分	一般教員

教科書	指定なし。
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業中に理解できなかったことがないよう質問はその場で挙手をしてその都度解決すること。理解をしたことは復習をして覚えること。復習をしてわからないことはそのままにせず質問しに来ること。

科目の目標	専門科目の勉強に向けて基礎知識をつける。ヒトの身体のしくみや体内反応を理解する力を養い、学習する習慣を身に付けていく。
授業概要	授業は板書を中心に必要であれば資料、スライドを活用する。授業開始時に論理的思考力を養う問題を解く。

日程

回数	授業内容
1	四則演算
2	割合 濃度
3	図形
4	元素と周期表 原子の構造
5	イオン
6	化学変化と化学反応式
7	水溶液の性質 (酸・塩基と pH)
8	糖 蛋白質 脂質
9	拡散 浸透 ろ過
10	ヒトのからだ
11	電気
12	運動と力
13	光と音
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

科 目	人文科学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	畠山 純一	教員区分	一般教員

教科書	浜島書店「基点◎現代文Ⅰ」
参考書	国語辞典、漢和辞典、ことわざ慣用表現辞典
成績評価	前半まとめ試験(20%)・定期試験(70%)・小テスト(随時実施)と提出物等(10%)
留意事項	1) 毎時教科書を持参し、授業中に解答・確認を行い、読み込む。 2) 演習問題を通して現代語の知識や学びに深い関心を持ち、身につける努力を続ける。

科目の目標	日本語の文章読解力を向上させるために、漢字・語句・慣用表現を学びその力を用いて適切に文章を読み取る。その上で段落メモの作成を行い設問を解き、百字要約をする。解答と解説を確認して内容理解を深め、作者の考えや経験を自身の知識や体験として追体験する。
授業概要	1、漢字と言葉 読み書き・意味・関連語を一緒に学び語彙を広げる。 2、段落メモ 段落の中心文をまとめ、文章全体をまとめる。 3、読解問題 記述・選択問題をバランス良く解答する力を育てる。 4、百字要約 穴埋めなどで段落を踏んで記述力を身につける。

日程 注「授業内容」に掲示した教材は、他の作品に変更する事があります。

回数	授業内容
1	授業内容の説明・他己紹介、1) 【評論】細谷功「具体的=わかりやすい？」を読む
2	2) 【小説】まほろ三桃「ものづくりの魅力」を読む
3	3) 【評論】原研哉「道具としてのデザイン」を読む
4	4) 【随筆】又吉直樹「文学のおもしろさ」を読む
5	5) 【評論】鷺田清一「とりとめもない交感」を読む
6	8) 【評論】大澤正彦「AIと人間の仕事」を読む
7	前半まとめ試験
8	前半まとめ試験解答と解説、9) 【小説】小川糸「バーバとかき氷」を読む
9	10) 【随筆】伊藤亜紗「手の人間関係」を読む
10	11) 【評論】山極寿一「人間の向社会行動とは」を読む
11	12) 【評論】永田和宏「若い時代の友人」を読む
12	13) 【小説】朝井リョウ「わらわれない理由」を読む
13	17) 【評論】中西進「日本語の豊かさ」を読む
14	16) 【小説】幸田文「おとうと」を読む。定期試験範囲の総合演習と振り返り
15	定期試験
16	定期試験解答と解説、総合復習

科 目	人間学Ⅲ（心理学）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	齋藤 宏子	教員区分	一般教員

教科書	なし。毎回プリントを配布。
参考書	「人間関係論 第3版」石川ひろの他 医学書院
成績評価	グループワーク、振り返りシート、定期試験による総合評価とする。
留意事項	振り返りシートを毎回授業の最後に記入し、提出すること。

科目の目標	全人的医療を提供するために必要な心理学の基礎を理解し、応用できるようになる。
授業概要	医療現場における人間関係、そして人間と社会の関わりについて学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	第1部 人間関係基礎論 第1章 人間関係の中の自己と他者
2	第1部 人間関係基礎論 第2章 対人関係と役割
3	第1部 人間関係基礎論 第3章 態度と対人行動
4	第1部 人間関係基礎論 第4章 集団と個人
5	第1部のまとめ
6	第2部 人間関係をつくる理論と技法 第1章 コミュニケーション
7	第2部 人間関係をつくる理論と技法 第2章 カウンセリングと心理療法
8	第2部 人間関係をつくる理論と技法 第3章 コーチング
9	第2部 人間関係をつくる理論と技法 第4章 アサーティブ・コミュニケーション
10	第2部のまとめ
11	第3部 保健医療における人間関係 第1章 保健医療チームの人間関係
12	第3部 保健医療における人間関係 第2章 患者や家族を支える人間関係
13	第3部 保健医療における人間関係 第3章 地域をつくる人間関係
14	第3部のまとめ
15	定期試験
16	試験の解説、授業総括

科 目	解剖学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	矢倉 富子	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「プロメテウス解剖学コアアトラス」医学書院、「骨学のすゝめ」南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	100%の出席を目指す。

科目の目標	(1) 基本的な人体構造について理解する。 (2) 骨格系の基本的な構造と機能について理解する。
授業概要	解剖学は、医療の道に進む全ての人が最初に学ぶ学問であり、人体構造と機能を理解する事は必須である。講義は、人体構造の知識の必要性を踏まえながら、組織学・発生学・画像解剖学などの関連学問と関係づけて行う。さらに小テストを適宜行い、基礎的な知識を身に付ける。

日程

回数	授業内容
1	解剖学総論 (A 意義と分類)
2	解剖学総論 (B 細胞および組織、C 発生)
3	解剖学総論 (D 器官系統、E 人体の区分)
4	骨格系 (1 総論) 1
5	骨格系 (1 総論) 2
6	骨格系 (2 各論 : a 脊柱)
7	骨格系 (2 各論 : b 胸郭)
8	骨格系 (2 各論 : c 上肢骨)
9	骨格系 (2 各論 : d 上肢の関節)
10	骨格系 (2 各論 : e 下肢骨)
11	骨格系 (2 各論 : f 下肢の関節)
12	骨格系 (2 各論 : g 頭蓋) 1
13	骨格系 (2 各論 : g 頭蓋) 2
14	まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	解剖学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	講義中に紹介する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	運動器の基幹要素である筋肉の名称・付着部位・起始停止について理解する。
授業概要	全身の筋肉を既習した骨格系に付加する形で、その構成を俯瞰的に捉え、柔道整復師領域における主要な筋肉の位置・形態・特徴等を把握出来るように学習する。 進行状況により内容が変更となることがある。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション 概論
2	上肢の筋①（上肢帯・上腕）
3	上肢の筋②（上肢帯・上腕）
4	上肢の筋③（前腕）
5	上肢の筋④（前腕）（手の筋）
6	下肢の筋①（下肢帯の筋）
7	下肢の筋②（大腿の筋）
8	下肢の筋③（下腿の筋）
9	下肢の筋④（足の筋）
10	骨格筋・頭部の筋・頸部の筋
11	胸部の筋・呼吸運動
12	腹部の筋
13	背部の筋
14	全範囲まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	生理学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行うこと。

科目の目標	本科目においては、生理学の基礎、血液の生理学、循環器系、呼吸器系の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。

日程

回数	授業内容
1	生理学の基礎：生理学とは、人体を構成する要素 ホメオスタシス、からだの化学的構成
2	生理学の基礎：細胞の機能的構造、DNA の複製とタンパク質合成
3	生理学の基礎：物質の移動（拡散、浸透、ろ過）と輸送
4	血液の生理学：血液の役割、血液の組成
5	血液の生理学：免疫機構
6	血液の生理学：血液型、血液の凝固
7	循環の生理学：心臓の機能
8	循環の生理学：循環の調節①
9	循環の生理学：循環の調節②
10	循環の生理学：局所循環、脳脊髄液
11	呼吸の生理学：呼吸器の機能的構造、換気
12	呼吸の生理学：ガス交換、血液中の酸素の運搬
13	呼吸の生理学：血液中の二酸化炭素の運搬、呼吸を調節するしくみ
14	呼吸の生理学：特殊環境下の呼吸
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎柔道実技 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	川崎 有子	教員区分	一般教員

教科書	
参考書	
成績評価	実技試験 100 点満点、出席評価（欠席：－5 点、遅刻：－3 点）とする。
留意事項	<p>①約束やルールを守り自他の健康と安全に留意して真摯に取り組むこと。</p> <p>②見学の場合、柔道衣に着替えて授業内容のレポートを提出することで出席とする。</p> <p>③身体的問題が生じた場合は授業前に必ず相談すること。</p> <p>④柔道衣は洗濯して清潔にすること。</p> <p>⑤爪を切ること。</p> <p>⑥アクセサリ等は身に着けず、髪が長い場合は肩につかない程度に結ぶこと。</p>

科目の目標	<p>①柔道の精神的修養における徳性を養い、身だしなみを整えることができる。</p> <p>②礼法（立礼・坐礼・拝礼）を修得することで、内に礼の精神と、外に礼法を正しく守ることができる。</p> <p>③受身（後受身、横受身、前回り受身）を修得することで身を守るすべを身に着けることができる。</p> <p>④柔道の基本技術を学び、動きの変化に応じた動作から技に繋げることができるようになる。</p>
授業概要	<p>①柔道の「精力善用」「自他共栄」の精神から、柔道整復師としての資質（人格形成）、心身の鍛錬を目的とし、人としての振舞いの基本（対話・接し方）、礼儀作法の修得を最も重要とし進めていく。</p> <p>②クラスの友達と協力し積極的に取り組むことでコミュニケーション力を養い、技能・思考・判断・表現の4要素の観点から学びを行うことで相互的に学び合い、主体的に取り組む力を養っていく。</p> <p>③柔道の技から身体の動きを理解し、柔道整復の技術や手技、障害予防を考えた授業を行っていく。</p>

日程

回数	授業内容
1	<p>1. オリエンテーション（授業概要について、柔道の歴史）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道の「歴史」と「特性」を理解することができる。</li> <li>・柔道を「安全に実施するうえでの心得」について理解することができる。</li> </ul> <p>2. グループワーク（柔道とコミュニケーション）</p>
2	<p>1. グループワーク（柔道の外傷予防に必要なトレーニングを考える）</p> <p>2. 発表と実践</p>
3	<p>1. 柔道衣の着方、礼法（立礼・坐礼・拝礼）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道の「礼法」と「柔道衣の扱い方」を理解し実施することができる。</li> <li>・相手の人格を尊重し敬意を表する礼法の意義について理解し取り組むことができる。</li> </ul> <p>2. 柔道に必要なトレーニング</p>



4	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 礼法 (立礼・坐礼・拝礼)</li> <li>2. 受身の基本 (後受身と横受身:長座・蹲踞・立位姿勢)</li> <li>3. 柔道に必要なトレーニング</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 礼法 (立礼・坐礼・拝礼)</li> <li>2. 受身の基本 (後受身と横受身:長座・蹲踞・立位姿勢)</li> <li>3. 柔道の基本動作 (姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き)</li> <li>4. 柔道に必要なトレーニング</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 礼法 (立礼・坐礼・拝礼)</li> <li>2. 受身の基本 (後受身と横受身:長座・蹲踞・立位、移動しながらの受身) (前回り受身:膝をついて回転)</li> <li>3. 柔道の基本動作 (姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き)</li> <li>4. 柔道に必要なトレーニング</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 礼法 (立礼・坐礼・拝礼)</li> <li>2. 受身の基本 (後受身と横受身:長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身) (前回り受身:膝をついて回転、立位から回転)</li> <li>3. 受身の応用 (ペアトレーニング)</li> <li>4. 柔道の基本動作 (姿勢・組み方・進退動作)</li> <li>5. 柔道に必要なトレーニング</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 礼法 (立礼・坐礼・拝礼)</li> <li>2. 受身の基本 (後受身と横受身:長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身) (前回り受身:膝をついて回転、立位から回転)</li> <li>3. 受身の応用 (ペアトレーニング)</li> <li>4. 柔道の基本動作 (姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受けと取りの役割)</li> <li>5. 技の実践 (膝車) 両膝→片膝→中腰→立位</li> <li>6. 柔道に必要なトレーニング</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 礼法 (立礼・坐礼・拝礼)</li> <li>2. 受身の基本 (後受身と横受身:長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身) (前回り受身:蹲踞、立位、移動しながら回転)</li> <li>3. 受身の応用 (ペアトレーニング)</li> <li>4. 柔道の基本動作 (姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受けと取りの役割)</li> <li>5. 技の実践 (膝車) 両膝→片膝→中腰→立位</li> <li>6. 柔道に必要なトレーニング</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 礼法 (立礼・坐礼・拝礼)</li> <li>2. 受身の基本 (後受身と横受身:長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身) (前回り受身:片膝、立位、移動しながら回転)</li> <li>3. 受身の応用 (ペアトレーニング)</li> <li>4. 柔道の基本動作 (姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受けと取りの役割)</li> <li>5. 技の実践 (膝車) 両膝→片膝→中腰→立位→動きながら</li> <li>6. 柔道に必要なトレーニング</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 礼法 (立礼・坐礼・拝礼)</li> <li>2. 受身の基本 (後受身と横受身:長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身) (前回り受身:片膝、立位、移動しながら回転)</li> <li>3. 受身の応用 (ペアトレーニング)</li> <li>4. 柔道の基本動作 (姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受けと取りの役割)</li> <li>5. 技の実践 (出足払) 立位→動きながら</li> <li>6. 柔道に必要なトレーニング</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 礼法 (立礼・坐礼・拝礼)</li> <li>2. 受身の基本 (後受身と横受身:長座・蹲踞・立位姿勢、移動しながらの受身) (前回り受身:片膝、立位、移動しながら回転)</li> <li>3. 受身の応用 (ペアトレーニング)</li> </ul>

	4. 柔道の基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受けと取りの役割） 5. 技の実践（大腰）立位→動きながら 6. 柔道に必要なトレーニング
1 3	昇段審査に基づいた実践 礼法（立礼・坐礼）、投技（膝車、出足払、大腰）
1 4	実技試験 1
1 5	実技試験 2
1 6	試験解説、授業総括

科 目	柔道整復学総論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	藤原 和人	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全出席する。1回欠席すると授業についていけなくなる事を自覚する。 2. 予め教科書を読んで、読めない漢字を調べておく。 3. 復習はその日のうちに行う。 4. 授業中、私語は禁止とする。不明な点があれば挙手をしてその都度質問する。

科目の目標	1. 解剖学を学びながら骨損傷の基礎を理解する。 2. 外傷が発生するメカニズムを理解する。 3. 学んだ内容を他者に説明できるようにする。
授業概要	骨損傷について教科書に沿ってスライドを活用し配布プリント、板書にて進めていく。 授業開始時に前回の復習テストを行う。進行具合により授業内容を変更する。

日程

回数	授業内容
1	授業ガイダンス
2	骨の形態と機能①
3	骨の形態と機能②、骨損傷の概説
4	骨折の分類①
5	骨折の分類②
6	骨折の症状①
7	骨折の症状②
8	骨折の合併症①
9	骨折の合併症②
10	骨折の合併症③
11	小児骨折・高齢者骨折①
12	小児骨折・高齢者骨折②
13	骨癒合の日数、骨折の治癒過程
14	骨折の予後、治癒に影響を与える因子
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学総論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	宮内 淳一	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	必要に応じて参考資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	欠席・遅刻をせず、説明をよく聞き、理解を伴った記憶をすること。復習を怠らないこと。

科目の目標	柔道整復術と柔道整復師の概説を知る。損傷に関する身体の基礎的状态と外力を理解する。関節の構造を学びながら、捻挫や脱臼についての基礎を理解する。
授業概要	授業の冒頭で単元ごとの復習テストを行う。

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス
2	人体に加わる力、損傷時に加わる力
3	各組織の損傷 関節の損傷(関節の構造と機能①)
4	各組織の損傷 関節の損傷(関節の構造と機能②)
5	各組織の損傷 関節の損傷(関節部損傷の概説・分類、鑑別診断を要する類症)
6	各組織の損傷 関節の損傷(関節構成組織損傷①)
7	各組織の損傷 関節の損傷(関節構成組織損傷②)
8	各組織の損傷 関節の損傷(関節構成組織損傷③)
9	各組織の損傷 関節の損傷(脱臼①)
10	各組織の損傷 関節の損傷(脱臼②)
11	各組織の損傷 関節の損傷(脱臼③)
12	各組織の損傷 関節の損傷(脱臼④)
13	各組織の損傷 関節の損傷(脱臼⑤)
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	柔道整復学総論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	関口 将一	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全出席する。1回休むと授業についていけなくなる事を自覚する。 2. 教員から質問をするので授業に参加して答えられるようにする。 3. 質問シート(大福帳)を利用して理解できなかったことをそのままにしない。

科目の目標	1. 柔道整復師の業務を理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の総論を教科書に沿って配布資料、板書、スライドにて進めていく。 適宜小テストを行う。 進行具合により授業内容を変更する。

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス
2	柔道整復師とは
3	柔道整復師の沿革、柔道整復師倫理綱領柔道整復師の業務範囲
4	柔道整復師の業務範囲
5	各組織の損傷 筋の損傷①
6	各組織の損傷 筋の損傷②
7	各組織の損傷 筋の損傷③
8	各組織の損傷 筋の損傷④
9	各組織の損傷 腱の損傷①
10	各組織の損傷 腱の損傷②
11	各組織の損傷 腱の損傷③
12	各組織の損傷 末梢神経の損傷①
13	各組織の損傷 末梢神経の損傷②
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	柔道整復基礎実技 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	宮下 寧音	教員区分	実務教員

教科書	「包帯固定学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
参考書			
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）、身嗜み、授業態度で評価する。		
留意事項	実習着を着用する。施行部位に合わせて素肌が露出できるようにする。		

科目の目標	この科目では固定法を理解し、柔道整復師として必要な基本包帯法の習得を目標とする。また、常に適切な態度で実習に臨むことにより医療人としての基礎を養う。		
授業概要	巻軸包帯、晒などの材料を用いた包帯法を実演し説明する。学生が施術者、助手、患者モデルになり各包帯法をお互いに繰り返し実習する。医療人に相応しい態度、話し方で行う。		

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。		
実務経験と授業の関連	臨床で治療に用いた包帯法を授業に取り入れる。		

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス 材料確認
2	晒包帯作成・固定、三角巾による提肘
3	基本包帯法 — 巻軸帯の巻き方、巻き戻し
4	部位別包帯法 — 前腕部（折転帯）、肘部（亀甲帯）
5	部位別包帯法 — 肩部（麦穂帯）
6	部位別包帯法 — 膝部（亀甲帯）、股関節部（麦穂帯）
7	部位別包帯法 — 下腿部（折転帯・麦穂帯）
8	部位別包帯法 — 足関節（麦穂帯・三節帯・亀甲帯）
9	部位別包帯法 — 手関節（麦穂帯）、手指部（麦穂帯）
10	冠名包帯法（ヴェルポー包帯、ジュール包帯）
11	冠名包帯法（デゾー包帯）
12	総復習1
13	総復習2
14	定期試験1
15	定期試験2
16	試験解説、授業総括

科 目	柔道整復基礎実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	関 凌眞 ・ 藤原 和人	教員区分	実務教員

教科書	「包帯固定学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）、身嗜み、授業態度で評価する。
留意事項	実習着を着用する。テーピング施行部位に合わせ素肌を露出でき、テーピングを巻かれやすいよう準備する。下肢の場合、実習着の下はハーフパンツ等とする。

科目の目標	柔道整復師として必要なテーピング技能の習得を目標とする。
授業概要	ホワイトテープを用いてテーピングを実演し説明する。続いて、学生が施術者、患者モデルになりテーピングをお互いに繰り返し練習する。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	接骨院にて施術に使用しているテーピングを授業で行う。

日程

回数	授業内容	
1	ガイダンス	(関・藤原)
2	テーピングの基礎 アンダーラップの巻き方	(関)
3	部位別テーピング1 - 足関節①	(藤原)
4	部位別テーピング2 - 足関節②	(藤原)
5	部位別テーピング3 - 足関節③	(藤原)
6	部位別テーピング4 - 足関節・復習①	(関・藤原)
7	部位別テーピング5 - 足関節・復習②	(関・藤原)
8	部位別テーピング6 - 膝関節①	(藤原)
9	部位別テーピング7 - 膝関節②	(藤原)
10	部位別テーピング8 - 手関節・手指	(関)
11	部位別テーピング9 - 足底・足趾	(関)
12	総復習1	(関・藤原)
13	総復習2	(関・藤原)
14	定期試験1	(関・藤原)
15	定期試験2	(関・藤原)
16	試験解説、授業総括	(関・藤原)

科 目	柔道整復診察法 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	神田 美樹	教員区分	実務教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	実習着の下は素肌を露出できる衣類を着用し、実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	臨床の基礎となる部位名称、骨や筋・腱付着部などの正しい名称、位置を理解する。
授業概要	分骨模型を使用し、骨の名称や部位を確認し触診する。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床で行っている診察方法を授業に取り入れる。

日程

回数	授業内容
1	体表区分
2	上肢の骨の名称と位置①
3	上肢の骨の名称と位置②
4	上肢の骨の名称と位置③
5	上肢の骨の名称と位置④
6	下肢の骨の名称と位置①
7	下肢の骨の名称と位置②
8	下肢の骨の名称と位置③
9	下肢の骨の名称と位置④
10	体幹の骨の名称と位置
11	体表から触れる骨と筋の指標
12	測定法（四肢長、周径）
13	総復習
14	定期試験①
15	定期試験②
16	試験解説、授業総括



科 目	身体と科学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	船渡 和男	教員区分	一般教員

教科書	特になし。
参考書	必要に応じて指示する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	生理学・力学的知識から身体運動のメカニズムを理解し、トレーニング科学を習得する。
授業概要	身体運動の骨・筋・関節の働きやトレーニング効果に関して「運動学」的見地から学習する。

日程

回数	授業内容
1	授業ガイダンス (スポーツ科学、応用健康科学、体育科教育について)
2	身体運動を科学する 身体運動科学研究と支援の国内外の取り組み
3	身体運動のしくみ1
4	身体運動のしくみ2
5	身体運動のしくみ3
6	身体運動の生理学1
7	身体運動の生理学2
8	身体運動の生理学3
9	身体運動のバイオメカニクス1
10	身体運動のバイオメカニクス2
11	身体運動のバイオメカニクス3
12	身体トレーニングの科学1
13	身体トレーニングの科学2
14	身体トレーニングの科学3
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	人間学 I (哲学的人間学)	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	内藤 潔	教員区分	一般教員

教科書	指定なし (1週間前にレジュメを配布し、当日にパワーポイントで講義する)。
参考書	毎回のレジュメで紹介するが、主なるものは以下です。 『交換の社会学』橋本茂著 (世界思想社) 『贈与論』マルセル・モース著 (ちくま学芸文庫) 『功利主義入門：はじめての倫理学』児玉聡著 (ちくま新書) 『ファッションの技法』山田登世子著 (講談社現代新書) 『ファッションの文化社会学』ジョアン・フィンケルシュタイン著・成実弘至訳 (せりか書房) 『自発的隷従論』エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ著/西谷修監修・訳 (ちくま学芸文庫) 『監獄の誕生』ミッシェル・フーコー著/田村淑訳 (新潮社) 『自由からの逃走』エーリッヒ・フロム著/日高六郎訳 (東京創元社) 『行動経済学』友野典男著 (光文社新書) 『信頼の構造』山岸俊男著 (東京大学出版会) 『ファスト&スロー』ダニエル・カーネマン著 (ハヤカワ文庫) 『「新しい働き方」の経済学』井上義郎著 (現代書館) 『フリーライダーあなたの隣のただのり社員』河合太介・渡部幹著 (講談社現代新書)
成績評価	中間レポート30%、定期試験70%で評価する。
留意事項	定期試験は記述式の小論文です。初回授業からそれを意識して聴講してください。

科目の目標	自分なりに現実社会へ「定位」できる (自分の居場所を得られる)、そうした「社会的な技術」の把握を目指します。 そのため、職業人として今後必要となる「リアルな社会と人間の関係性」を理解することを目標とし、人間の社会的行動における基本的な原理を学びます。
授業概要	授業内容で暗記するようなことは、ほとんどありません。何よりも自分で考えることが中心的な課題となります。授業では、身近に起こっている社会的な事象をたくさん紹介します。社会的な関係が成立しているところには、必ず交換関係が存在するという観点に立ち、身近な出来事を一緒に分析します。そして、そこで交換される「交換財」や「交換形式」を学びながら、自分なりの行動原理を考えていくこととなります。

#### 日程

回数	授業内容
1	ガイダンス (学問とは幸福論であるという理解) と授業のイントロダクション
2	●人間の基本的な行動原理 ① 感情と理性 ② 集団でしか生き残れなかった人類 ③ 5つの一般命題 (人間行動の基本的な説明原理)
3	●社会行動は「財」の交換 ① 交換という関係性 (交換論の立場の解説) ② 互酬性 (贈与と返礼の関係性) ③ 功利主義 (快楽と苦痛が人間を動かす根本原理)

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●権力と権威の在りどころ</li> <li>① 勢力と権力</li> <li>② 利害関心最少の原理 (惚れた弱み)</li> <li>③ 「中央化」とは (偉そうな人間の存在構造)</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●挨拶はなぜ必要か?</li> <li>① 規範と集団 (同調には報酬、逸脱には罰を)</li> <li>② 空間浸食 (縄張り争い)</li> <li>③ マナー、作法 (安全保障に向けた同質性の証明)</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファッションの意味</li> <li>① 逸脱には罰を (所属集団の明示と期待に対する応答性、時流との整合性)</li> <li>② 同一性と差異性 (異なる願望の同時達成)</li> <li>③ 印象の資源化 (交換関係における価値の操作)</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アメとムチ (他者統制の方法)</li> <li>① 罰による統制</li> <li>② 本姓としての自由 (自由剥奪の様々な方法を罰という)</li> <li>③ 人間本姓としての隷従願望 (誰かに従っていないと不安)</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人と人の結びつき (紐帯) の原理的傾向</li> <li>① バランス理論 (態度を変えるときの説明原理)</li> <li>② 関係の多面化 (離れられない関係になる理由)</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>●どちらが損か得か (合理性命題)</li> <li>① 経済学と「経済人」 (ホモ・エコノミクスという社会的な人間類型)</li> <li>② 功利主義 (快樂の増大と苦痛の減少=道德の基礎)</li> <li>③ 合理性命題 (損得勘定の原理)</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いつでも都合の良い他人 (捨象の産物)</li> <li>① 認識と思考のメカニズム (知覚→認識→思考)</li> <li>② 具体から抽象へ (「余分」を切り取った認識パターン)</li> <li>③ ユーザーの捨象 (権力的な関係が生まれる構造)</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●もめごとの本質 (他人の空間的な侵犯)</li> <li>① 行為の越境</li> <li>② 権利の両属空間 (どちらにも権利がある)、調停の限界 (法では解決できないこと)</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安全・安心/ファスト思考とスロー思考</li> <li>① 安心ということ</li> <li>② 信頼の構造 (「一般的信頼」が大切)、一般的信頼を高める方法</li> <li>③ 早い思考と遅い思考 (私たちの脳は怠け者: 認知容易性の落とし穴)</li> </ul>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●何を基準に仕事を選ぶのか? 給料をもらうとは?</li> <li>① 認知容易性 (楽そうなことをすぐ選ぶ)</li> <li>② 「比較優位」の原理 (得意なことを仕事にする)</li> <li>③ 実際の職業生活における「交換」</li> </ul>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「公」への無関心</li> <li>① フリーライダー問題 (ただ乗り)</li> <li>② 割れ窓理論 (放置の問題性)</li> <li>③ 権利・関無意識の変化 (権利主張の風潮)</li> <li>④ 行為と距離 (物理的距離と心理的距離)</li> </ul>
15	定期試験
16	まとめ

科 目	人間学Ⅱ（生命倫理学）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	渡部 恵子	教員区分	一般教員

教科書	適宜資料プリントを配布する。
参考書	黒崎剛 他『生命倫理の教科書』（ミネルヴァ書房）
成績評価	授業プリント（兼ノート、リフレクションシート）提出 40% にて評価する。
留意事項	出席、授業態度を重視する。

科目の目標	1. 現代社会で可能となっている生命に関わる科学技術…生殖補助医療、遺伝子操作、医療倫理、脳死と臓器移植、安楽死・尊厳死などについて、その内容を知り、理解を深める。 2. 最先端の生命に関する科学技術は倫理的に許されるものなのか、医療に従事する者として考察し、個人の意見を持てるようにする。
授業概要	遺伝子操作や iPS 細胞などの医療・科学技術の進歩は目覚ましく、新聞・ニュース等で日々新しい情報が入ってくる。新しく生まれてくる現実の技術は、倫理的に許されることなのか、生命に関する医療・科学技術の現状・事例を知り、自分の常識を更新しながら、情報に溺れない基礎知識・能力を培っていく。

日程

回数	授業内容
1	生命倫理学とは何か（概論）、現代社会と生命倫理学との関わり 生殖補助医療①（人工受精、体外受精、代理出産、出自を知る権利）
2	生殖補助医療②（生殖ビジネス、男女の産み分け、出生前診断）
3	人工妊娠中絶①（日本の現状と歴史的経緯、優生保護法、母体保護法）
4	人工妊娠中絶②（アメリカの事例、宗教的考え方）
5	遺伝子操作①（遺伝子工学、オーダーメイド医療、再生医療、バイオハザード）
6	遺伝子操作②（エンハンスメント、遺伝子ビジネス、クローンの規制）
7	医療者の職業倫理①（ヒポクラテスの誓い、人体実験への反省、患者主体へ）
8	医療者の職業倫理②（リスボン宣言、インフォームド・コンセント、トリアージ）

科 目	人間学Ⅱ（生命倫理学）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	岡村 和彦	教員区分	一般教員

教科書	資料を配布する。
参考書	小泉博明 他 『テーマで読み解く生命倫理』（教育出版） 塩野寛 他 『生命倫理への招待』（南山堂） 盛永審一郎 『医学生のための生命倫理』（丸善出版） 今中雄一 『「病院」の教科書』（医学書院）
成績評価	1. リフレクションシート（状況に合わせグループ討論を含む） 30% （9回目、11回目、13回目にそれぞれ実施予定である。） 2. 定期試験 30% 以上にて評価する。 （上記の実施回はあくまで予定であるが、変更する際は予め説明をする。）
留意事項	出席と授業態度（居眠りの有無、授業に臨む姿勢等）は特に重視する。

科目の目標	1. 現代社会の生命倫理の諸問題に関する基礎知識及びその問題点に対する理解を深める。 2. 自己及び他者を尊重することの意味について学ぶ。 3. 医療現場で倫理的問題に直面した場合の対応方法を身につける。
授業概要	近年、医療技術や科学技術の進歩により、生命倫理に関する社会的注目が高まっている。医療従事者を目指す学生は、倫理とは実践が伴うものであることを理解し、専門知識の習得のみならず、「患者」や「実際の医療の現場」という視点を持って生命倫理に関する問題を考察することで、より高い倫理観を養い、人間性を高めることができる。 この授業においては、倫理に関する時事ニュース、脳死や臓器移植、QOLや生殖技術、さらには遺伝子に関する問題を取り上げるだけでなく、実際の医療現場や柔道整復と倫理の関係性や問題点等の具体的な内容についてもケースメソッド（あるいはケーススタディ）を通して考察し、近い将来に医療現場で有益となる倫理観を涵養する。

日程

回数	授業内容
9	現在の医療機関に問われるもの、医療制度 【リフレクションシート】
10	インフォームド・コンセント、患者と医師・医療従事者の関係
11	人生の終え方、ターミナルケアとQOL、認知症、終末期医療 【リフレクションシート】
12	脳死・臓器移植、心臓移植と脳死、ドナーとリビングウィル
13	医療における安全、医療事故・過誤、医療施設でのエラーの考え方・分析手法・防止策 【リフレクションシート】
14	総復習
15	定期試験
16	定期試験解説等

科 目	解剖学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	北原 秀治	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「入門人体解剖学」南江堂、「標準組織学総論」医学書院、授業中に資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	100%の出席を目指す。

科目の目標	人体解剖学概説では、これから学んでいく解剖学とはどのような学問であるかを知る。脈管系、消化器系が果たす役割を理解する。
授業概要	人体解剖学概説では解剖学について、また人体を構成する細胞、組織、器官について広く講義する。脈管系、消化器系では人体を構成する全ての脈管と消化器の構造、機能について詳細に学んでいく。さらに小テストを通じて、基礎的な知識を応用する力を身に付ける。

#### 日程

回数	授業内容
1	ガイダンス、解剖学Ⅲ総論
2	脈管系1 (脈管系組織学)
3	脈管系2 (脈管系解剖学1)
4	脈管系3 (脈管系解剖学2)
5	脈管系4 (脈管系解剖学3、演習問題)
6	脈管系5 (循環器系解剖学：心臓、肺循環、胎児循環)
7	脈管系6 (リンパ系解剖学、脈管系病態学)
8	消化器系1 (口腔、咽頭)
9	消化器系2 (食道、胃)
10	消化器系3 (小腸、大腸、肛門)
11	消化器系4 (肝臓)
12	消化器系5 (胆嚢、膵臓)
13	消化器系6 (消化器系病態解剖学)
14	試験対策演習問題
15	定期試験
16	定期試験解説、解剖学Ⅲまとめ

科 目	解剖学Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	矢倉 富子	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「プロメテウス解剖学コアアトラス」医学書院
成績評価	定期試験と小テストで評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	1. 基本的な人体構造について理解する。 2. 呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌系について、基本的な事項を理解する。
授業概要	解剖学は、医療の道に進む全ての人が最初に学ぶ学問であり、人体構造と機能を理解する事は必須である。講義は人体構造の知識の必要性を踏まえながら、組織学・発生学・画像解剖学などの関連学問と関係づけて行う。さらに小テストを適宜行い、基礎的な知識を身に付ける。

日程

回数	授業内容
1	前期 復習、まとめ (内頭蓋底)
2	呼吸器① 総論
3	呼吸器② 各論：外鼻、鼻腔と副鼻腔、咽頭、喉頭、気管および気管支
4	呼吸器③ 各論：肺、胸膜、縦隔
5	泌尿器① 総論
6	泌尿器② 各論：腎臓
7	泌尿器③ 各論：尿管、膀胱、尿道
8	生殖器① 総論
9	生殖器② 各論：男性生殖器
10	生殖器③ 各論：女性生殖器
11	生殖器④ 各論：胎盤、初期発生
12	内分泌系① 総論
13	内分泌系② 各論：下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体
14	内分泌系③ 各論：副腎、膵臓、精巣、卵巣
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	生理学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	各章ごとの臓器や器官、器官系としての基本的な仕組みや役割を理解する。
授業概要	国家試験問題解答に必要なキーワードを基礎として生理学としての知識を深めていく。

日程

回数	授業内容
1	呼吸①：呼吸器の機能的構造、換気
2	呼吸②：ガス交換、血液中の酸素の運搬
3	呼吸③：血液中の二酸化炭素の運搬、呼吸を調節するしくみ
4	呼吸④：呼吸の異常、特殊環境下の呼吸、人工呼吸
5	尿の生成と排泄①：腎臓の作りと働き
6	尿の生成と排泄②：尿の調節ホルモンと糸球体濾過
7	尿の生成と排泄③：排尿反射
8	消化と吸収①：消化器系のはたらき、消化管の運動とその調節
9	消化と吸収②：消化液の分泌機序
10	消化と吸収③：吸収、消化管ホルモン
11	栄養と代謝①：代謝、中間代謝
12	栄養と代謝②：エネルギー代謝
13	体温①：体温、体温の生理的変動、体内における熱の産生
14	体温②：熱放散、体温の調節、うつ熱と発熱、気候馴化
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説



科 目	生理学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	竹内 梨紗	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、予習・復習を必ず行うこと。予習は教科書の該当部分を必ず読むこと。配布資料と教科書を必ず持参すること。復習には教科書と配布資料を用いること。

科目の目標	生体は生命を維持するために内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学Ⅲにおいては、内分泌系、生殖系、および骨の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿ってスライドを用いながら講義を行い、生理学の知識を深めていく。必要に応じて確認テストを行う。講義の進度により授業内容が前後する場合がある。

日程

回数	授業内容
1	内分泌系①：内分泌腺とホルモン
2	内分泌系②：視床下部ホルモン
3	内分泌系③：下垂体ホルモン
4	内分泌系④：甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン
5	内分泌系⑤：副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン
6	内分泌系⑥：腎・膝ホルモン
7	内分泌系⑦：性ホルモン
8	内分泌系⑧：内部環境の恒常性維持
9	生殖①：性分化、男性の生殖
10	生殖②：女性の生殖
11	生殖③：妊娠と分娩
12	骨の生理学①：骨の構造・成長
13	骨の生理学②：骨形成と骨吸収
14	骨の生理学③：カルシウム代謝の調節
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎柔道実技Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	川崎 有子	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点・遅刻：－3点）、授業態度で評価する。
留意事項	① 実技中の安全管理に努める。 ② 必ず指導者の指示に従い、説明中の私語は控え注意事項を確認した上で実施すること。相手を労り悪ふざけしないこと。 ③ 見学の場合は、柔道着に着替え当日の授業レポートを提出すること。

科目の目標	受身、立技、寝技への理解・技術を学ぶ。コミュニケーションを豊かにし身体活動により心身の健康を図り、礼儀を重んじ節度節制の心を磨く。
授業概要	前回学んだことを復習しながら、上達度に合わせて指導していく。 基本的に二人一組での投技の対人実技が中心となる。

日程

回数	授業内容
1	前期の復習、投形（手技：浮落）、約束稽古、抑込技（袈裟固）
2	投形（手技：背負投）、約束稽古、抑込技（横四方固）
3	投形（腰技：大腰）、約束稽古、抑込技（上四方固）
4	投形（腰技：払腰）、約束稽古、抑込技（袈裟固）
5	投形（足技：送足払）、約束稽古、寝技乱取
6	投形（足技：支釣込足）、約束稽古、寝技乱取
7	投技（手技：一本背負投）打込、移動しながらの背負投、寝技乱取
8	投技（腰技：大腰）打込、移動しながらの大腰、寝技乱取
9	投技（腰技：払腰）打込、移動しながらの払腰、寝技乱取
10	投技（足技：出足払）打込、移動しながらの送足払、寝技乱取
11	投技（足技：大外刈）打込、移動しながらの大外刈、寝技乱取
12	投技（足技：大内刈）打込、移動しながらの大内刈、寝技乱取
13	約束乱取の基本、寝技乱取
14	総復習、約束乱取の基本
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学総論Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	関口 将一	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全授業出席をし、復習を怠らないこと。 2. 不明な点はそのままにせず質問すること。

科目の目標	一般的な診察および治療法を理解する。
授業概要	診察、治療法の原理原則について教科書に沿って進めていく。

日程

回数	授業内容
1	診察①
2	診察②
3	整復法① 徒手整復施行時の配慮
4	整復法② 骨折の整復法 1
5	整復法③ 骨折の整復法 2
6	整復法④ 脱臼の整復法 1
7	整復法⑤ 脱臼の整復法 2
8	整復法⑥ 軟部組織損傷の初期処置
9	固定法①
10	固定法②
11	固定法③
12	後療法①
13	後療法②
14	後療法③ まとめ
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	柔道整復学各論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	神田 美樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	教科書（柔道整復学・理論編、解剖学）を必ず持参する。 予習、復習を怠らない。

科目の目標	頭部、顔面部および胸腰部の疾患を学び、各論を理解する。各部位の機能解剖を学び、疾患への理解を深め、頭部、顔面部および胸腰部の症例に関する知識を習得していく。
授業概要	プロジェクターを用いて説明する。

日程

回数	授業内容
1	頭部、顔面部の骨折①
2	頭部、顔面部の骨折②
3	頸椎の骨折①
4	頸椎の骨折②
5	胸椎の骨折
6	腰椎の骨折
7	胸部の骨折
8	顎関節脱臼①
9	顎関節脱臼②
10	頸椎脱臼 胸椎の脱臼 腰椎の脱臼
11	頭頸部の軟部組織損傷
12	胸背部の軟部組織損傷
13	腰部の軟部組織損傷
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

科 目	柔道整復基礎実技Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「包帯固定学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）、身嗜みで評価する。
留意事項	実習着を着用する。施行部位に合わせて素肌が露出できるようにする。

科目の目標	この科目では固定法を理解し、柔道整復師としての基礎的な固定技能の習得を目標とする。また、常に適切な態度で実習に臨むことにより医療人としての心、態度を養う。
授業概要	巻軸包帯に加え、各種固定材料を用いた包帯法を実演し説明する。学生が施術者、助手、患者モデルになりお互いに実習する。

日程

回数	授業内容
1	晒による固定、投石帯
2	厚紙副子（作成・固定）
3	クラーメル金属副子（作成）
4	クラーメル金属副子（固定）
5	アルミ副子（作成・固定）
6	熱可塑性キャスト材（作成）
7	熱可塑性キャスト材（固定）
8	ギプス（作成・固定）
9	吸水硬化性キャスト材（作成1）
10	吸水硬化性キャスト材（作成2）
11	吸水硬化性キャスト材（固定）
12	総復習1
13	総復習2
14	定期試験1
15	定期試験2
16	試験解説、授業総括

科 目	柔道整復基礎実技Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	藤原 和人	教員区分	一般教員

教科書	「包帯固定学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	実習着を着用する。テーピング施行部位に合わせ素肌を露出し、テーピングを巻かれやすいよう準備する。実習着の下はハーフパンツ等とする。

科目の目標	柔道整復師として必要なテーピング技能の習得を目標とする。
授業概要	伸縮テーピングを用いて実演し説明する。続いて、学生が施術者、患者モデルになりテーピングをお互いに繰り返し実習する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション 前期復習 エラスティックテープの扱い方
2	部位別テーピング（足関節）
3	部位別テーピング（膝関節①）
4	部位別テーピング（膝関節②）
5	キネシオテーピングの扱い方 部位別テーピング（腰部）
6	部位別テーピング（大腿部①）
7	部位別テーピング（大腿部②・下腿部①）
8	部位別テーピング（下腿部②）
9	部位別テーピング（肩部①）
10	部位別テーピング（頸部・肩部②）
11	傷病別テーピング
12	総復習1
13	総復習2
14	実技試験1
15	実技試験2
16	試験解説まとめ

科 目	柔道整復診察法Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	岩坪 弘之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	レポート提出、出欠席状況、授業態度、課題などで総合的に評価する。
留意事項	実習着を着用する。医療人としての身嗜みを心がける。

科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療面接の意義を理解し、その技法を実践できる。</li> <li>2. 身体各部の主要な構造を理解し、主要な身体診察の技法を実践できる。</li> <li>3. 施術録は療養費申請時の重要なツールであることを理解できる。</li> <li>4. 柔道整復術に用いる基本的な手技ができる。</li> <li>5. 自ら考える力を身に付ける。</li> </ol>
授業概要	柔道整復師の臨床現場における医療面接について学習し、実践できるようになる。柔道整復師としてふさわしい姿勢、態度を身につける。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 医の倫理
2	医療者としての態度1 (身嗜み、言葉遣い、規律性)
3	医療者としての態度2 (コミュニケーション)
4	付帯義務 (施設衛生) リスクマネジメント
5	守秘義務 個人情報
6	保険証 問診表
7	診察1 (医療面接 触診など)
8	診察2 (計測、検査法、評価)
9	柔道整復術
10	施術録
11	症例報告
12	診察3 (医療面接まとめ)
13	医療者としての態度3 (まとめ①)
14	医療者としての態度4 (まとめ②)
15	医療者としての態度5 (まとめ③)
16	療養費支給申請

科 目	柔道整復診察法Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	武島 千明	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社 「リハビリテーション医学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 ※適宜プリント資料を配布する。
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：-5点、遅刻：-3点）で評価する。
留意事項	1. 実習着を着用する。 2. 実習着の下にTシャツやハーフパンツなど素肌を露出できるような衣類を着用する。 3. 実際の臨床の場を想定し医療人に相応しい態度、話し方で行う。 4. 進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	1. 解剖学で学んだ筋骨格系を再度触診により名称、位置を理解する。 2. 徒手検査の基本となる関節可動域や四肢の長さ、周径の測定方法を理解する。 3. 各種検査法の意義と手順を理解する。
授業概要	術者役、患者役になりお互いを測定・検査する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション・バイタルサイン①（意識・呼吸・脈拍・血圧・体温）
2	バイタルサイン②（意識・呼吸・脈拍・血圧・体温）
3	上肢の関節可動域の測定①（肩・肘・手）
4	上肢の関節可動域の測定②（肩・肘・手）
5	下肢の関節可動域の測定①（股・膝・足・足趾）
6	下肢の関節可動域の測定②（股・膝・足・足趾）
7	徒手筋力測定①（上肢1）
8	徒手筋力測定②（上肢2 下肢1）
9	徒手筋力測定③（下肢2）
10	徒手筋力測定④（下肢3）
11	形態測定（上・下肢、体幹）
12	感覚検査（表在・深部・複合感覚検査）
13	反射検査（表在反射・深部腱反射・病的反射・間代・自律神経反射） 総復習
14	実技試験①
15	実技試験②
16	試験解説



科 目	解剖学V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	北原 秀治	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「入門人体解剖学」南江堂、「プロメテウス解剖学コアアトラス」医学書院、授業中に配布する資料
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	100%の出席を目指す。

科目の目標	神経系の基礎を理解し、中枢神経、末梢神経、感覚器の構造と役割を説明できる。
授業概要	中枢神経系、末梢神経系および感覚器の解剖学を講義する。

日程

回数	授業内容
1	神経系の区分と特徴、神経組織および基礎
2	中枢神経：灰白質、白質、神経節と根、中枢神経系の区分、脳室系、髄膜と脳脊髄液
3	中枢神経：脳各部の形態と機能1 終脳、間脳
4	中枢神経：脳各部の形態と機能2 中脳、橋、延髄、小脳
5	中枢神経：脊髄の区分、伝導路、中枢神経練習問題
6	末梢神経：脳神経1
7	末梢神経：脳神経2、脳神経練習問題
8	末梢神経：脊髄神経1
9	末梢神経：脊髄神経2、皮膚分節
10	末梢神経：脊髄神経練習問題、交感神経と副交感神経
11	末梢神経：伝導路練習問題、感覚器：外皮、視覚器
12	感覚器：聴覚器、味覚器、嗅覚器
13	体表解剖、感覚器練習問題
14	総復習および試験対策
15	定期試験
16	定期試験の解説および神経系講義総括

科 目	生理学Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	竹内 梨紗	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、予習・復習を必ず行うこと。予習は教科書の該当部分を必ず読むこと。配布資料と教科書を必ず持参すること。復習には教科書と配布資料を用いること。

科目の目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学Ⅳにおいては、神経系および感覚系の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿ってスライドを用いながら講義を行い、生理学の知識を深めていく。必要に応じて確認テストを行う。講義の進度により授業内容が前後する場合がある。

#### 日程

回数	授業内容
1	神経の生理：神経系の構成要素、静止膜電位、活動電位
2	神経の生理：興奮の伝導と伝達
3	神経の生理：神経系の構成、脳の高次機能
4	神経の生理：睡眠と覚醒、学習と記憶
5	神経の生理：内臓機能の調節、視床下部による調節
6	神経の生理：自律神経系の構成
7	神経の生理：自律神経系による調節
8	神経の生理：内臓反射
9	感覚の生理：感覚の一般的な特性
10	感覚の生理：視覚
11	感覚の生理：聴覚、前庭感覚
12	感覚の生理：味覚、嗅覚
13	感覚の生理：体性感覚、内臓感覚
14	感覚の生理：痛覚
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	生理学V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行うこと。

科目の目標	生体活動における機械力の発生装置である「筋肉」についての構造と機能について理解する。 また、それらを統合的に調節管理する神経系の機能とその連携について理解する。 高齢者の生理機能と健常成人との違いについて理解する。 競技者の生理機能についての概要を把握トレーニングに伴う生体機能変化の特徴を理解する。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。

日程

回数	授業内容
1	筋の生理①：骨格筋の構造
2	筋の生理②：骨格筋の収縮と弛緩
3	筋の生理③：骨格筋と張力の関係・筋電図
4	筋の生理④：心筋・平滑筋
5	運動の生理①：運動に関係する主な中枢神経
6	運動の生理②：運動神経と運動単位・力の調節
7	運動の生理③：脊髄による反射とその調節
8	運動の生理④：脳幹による運動調節
9	運動の生理⑤：高次運動機能
10	運動の生理⑥：運動関連脳部位間の接続
11	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化①
12	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化②
13	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化③
14	1～13回復習・確認・まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	運動学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	船渡 和男	教員区分	一般教員

教科書	「運動学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社 「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	

科目の目標	運動学は人間の身体運動を科学的に研究する学問分野であることを理解する。 身体運動にかかわる身体の機能と構造についての基本的な知識を習得し、神経-筋の統合処理によって生じる身体運動の仕組みについて理解することを目標とする。
授業概要	身体運動に関する機能解剖学、バイオメカニクスおよび神経生理学について学習する。 姿勢や運動を構成する神経-筋骨格系の関連性について学習する。 (姿勢と歩行運動・運動機能発達・運動学習(トレーニング)による運動技能獲得の過程)

日程

回数	授業内容
1	運動学の目的・運動の表し方、身体運動と力学①
2	身体運動と力学②
3	身体運動と力学③
4	姿勢(姿勢の分類、重心、立位姿勢)
5	姿勢(立位姿勢の制御)
6	歩行(歩行周期、歩行の運動学的分析①)
7	歩行(歩行周期、歩行の運動学的分析②)
8	歩行(歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動①)
9	歩行(歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動②)
10	歩行(歩行のエネルギー代謝、異常歩行)
11	運動発達(神経組織の成熟、乳幼児の運動発達:反射・反応、出生早期にみられる反射)
12	運動発達(乳幼児の運動発達:全身運動、歩行運動、上肢運動の発達)
13	運動学習①
14	運動学習②、第1・2・3・9・10・11・12章補足およびまとめ
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	病理学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	竹内 梨紗	教員区分	一般教員

教科書	「病理学概論 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	講義プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	病理学が関連する全身の影響について常に考えること。

科目の目標	病理学の基礎を理解し、国家試験の出題傾向を把握する。
授業概要	教科書の重要項目について解説し、繰り返し問題演習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	病理診断、染色法、退行性病変① 萎縮（分類）
2	退行性病変② 萎縮、変性（定義と分類）、壊死（壊死とアポトーシス）
3	代謝異常と疾病、循環障害① 循環系の概要
4	循環障害② 循環系の概要（充血、うっ血、虚血、出血）
5	循環障害③ 血液循環障害（血栓症、塞栓症、梗塞）
6	循環障害④ リンパ循環障害（浮腫の成因）、進行性病変① 肥大（分類）
7	進行性病変② 再生（細胞の再生能力）、化生
8	進行性病変③ 肉芽組織（創傷の治癒と異物の処理）
9	進行性病変④ 移植、炎症における循環障害
10	炎症① 形態学的変化、分類（滲出性炎、炎症における循環障害）
11	炎症② 形態分類
12	炎症と免疫機構について①
13	炎症と免疫機構について②
14	確認とまとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	一般臨床医学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	河内 和宏	教員区分	一般教員

教科書	「一般臨床医学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「内科診断学」医学書院、「内科学」朝倉書店
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復学の各講義・実習と関連付けて学習すること。

科目の目標	重要な疾患概念の把握・理解と臨床に向けての知識の習得。
授業概要	教科書の項目を中心に解説する。授業内容は目安であり進み具合で変更する。

#### 日程

回数	授業内容
1	診察概論、診察各論 - 問診 (医療面接)
2	視診① (全体を捉える)
3	視診② (局所の視診)
4	打診、聴診、触診
5	生命徴候 (血圧、脈拍、呼吸、体温) とその異常
6	知覚検査 (知覚の神経科学的システム、検査の意義、異常)
7	反射検査 (反射の仕組みとその異常)
8	代表的臨床症状① (発熱、出血傾向、リンパ節腫脹)
9	代表的臨床症状② (意識障害、失神)
10	代表的臨床症状③ (チアノーゼ、関節痛、肥満、るいそう、成長障害)
11	検査法 (生命徴候の測定)
12	主要な疾患① (呼吸器疾患)
13	主要な疾患② (循環器疾患)
14	まとめ・復習
15	定期試験
16	試験の解説

科 目	外科学概論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	渡邊 利明	教員区分	一般教員

教科書	「外科学概論 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業内容は進行状況等で変更もありうる。

科目の目標	柔道整復師として必要な外科学の知識を学ぶ。
授業概要	病態や治療、手技を解剖学的・外科学的側面から学ぶ。国家試験出題基準の項目を中心に行う。

日程

回数	授業内容
1	損傷、創傷、熱傷
2	炎症と外科感染症
3	腫瘍
4	ショック
5	輸血、輸液
6	消毒と滅菌、手術
7	麻酔
8	移植と免疫
9	出血と止血
10	心肺蘇生法
11	脳神経外科疾患（頭部外傷）
12	胸部外傷
13	腹部外傷
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎柔道実技Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	田中 誠人	教員区分	一般教員

教科書	
参考書	
成績評価	定期試験、出欠席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	実技中の安全管理に努めること。

科目の目標	精力善用、自他共栄の精神を学ぶ。 柔道整復師としての基本的な柔道の心・技・体について理解する。 3年間で初段の習得を目指す。
授業概要	受身、投の形への理解・技術発展。柔道における精神・教えを説く。

日程

回数	授業内容
1	投の形「礼法 手技（浮落）」
2	投の形「手技（浮落）（背負投）」投げ技の練習（打込み）
3	投の形「手技（背負投）（肩車）」投げ技の練習（打込み）
4	投の形「手技（肩車）腰技（浮腰）」投げ技の練習（打込み）
5	投の形「腰技（浮腰）（払腰）」投げ技の練習（打込み）
6	投の形「腰技（払腰）（釣込腰）」投げ技の練習（約束乱取り）
7	投の形「腰技（釣込腰）足技（送足払）」投げ技の練習（約束乱取り）
8	投の形「足技（送足払）足技（支釣込足）」投げ技の練習（約束乱取り）
9	投の形「足技（支釣込足）足技（内股）」投げ技の練習（約束乱取り）
10	投の形「足技（内股）」投げ技の練習（約束乱取り）
11	投の形「手技」復習
12	投の形「腰技」復習
13	投の形「足技」復習
14	投げの形総合
15	定期試験
16	試験解説



科 目	柔道整復学各論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	関 凌眞	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	資料プリントを配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全出席する。 2. 配布資料を整理し各自管理する。 3. 不明な点はその都度質問する。 4. 進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	各部位の疾患への理解を深め、症例に関する知識を習得していく。
授業概要	各組織損傷を教科書に沿って配布プリントにて進めていく。小テストを適時行う。

日程

回数	授業内容
1	鎖骨骨折①
2	鎖骨骨折②
3	肩甲骨骨折
4	上腕骨近位部骨折①
5	上腕骨近位部骨折②
6	中間復習
7	上腕骨骨幹部骨折
8	上腕骨遠位部骨折①
9	上腕骨遠位部骨折②
10	上腕骨遠位部骨折③
11	前腕骨近位部骨折①
12	前腕骨近位部骨折②
13	総復習①
14	総復習②
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	柔道整復学各論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	武島 千明	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	資料プリントを配布する。
成績評価	定期試験、小テストで評価する。
留意事項	1. 全出席する。 2. 配布資料を各自管理し、整理する。 3. 不明な点はその都度質問し、自己研鑽に努める。 4. 進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	1. 外傷が発生するメカニズムを理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の各論を教科書に沿って、資料プリントおよび板書、スライドにて進めていく。 小テストを適時行う。

日程

回数	授業内容
1	授業の進め方 科目の概要
2	前腕部の損傷 前腕骨幹部骨折①
3	前腕部の損傷 前腕骨幹部骨折②
4	前腕部の損傷 前腕骨幹部骨折③
5	前腕部の損傷 前腕遠位端部骨折①
6	前腕部の損傷 前腕遠位端部骨折②
7	前腕部の損傷 前腕遠位端部骨折③
8	手関節部の損傷 手根骨部の骨折①
9	手関節部の損傷 手根骨部の骨折②
10	手指部の損傷 中手骨部の骨折①
11	手指部の損傷 中手骨部の骨折②
12	手指部の損傷 指骨の骨折①
13	手指部の損傷 指骨の骨折②
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	適宜、資料プリントを配布する
成績評価	定期試験、適宜行う授業内での小テストで評価する
留意事項	1. 全出席する。 2. 配布資料を各自管理し、整理する。 3. 不明な点はその都度質問し、自己研鑽に臨む。 4. 進行状況により授業内容を変更があり得る。

科目の目標	1. 外傷が発生するメカニズムを理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の各論を教科書に沿って、資料プリントおよび板書、スライドにて進めていく。 小テストを適時行う。

日程

回数	授業内容
1	鎖骨の脱臼
2	肩関節脱臼①
3	肩関節脱臼②
4	肩関節脱臼③
5	肘関節の脱臼①
6	肘関節の脱臼②
7	肘関節の脱臼③
8	手関節部の脱臼①
9	手関節部の脱臼②
10	手関節部の脱臼③
11	手関節部の脱臼④
12	手根中手関節の脱臼
13	中手指節関節, 指節間関節の脱臼①
14	中手指節関節, 指節間関節の脱臼②
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復各論実技 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	栗原 正道	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	資料プリントを配布する。
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－5点 遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	実習着着用、医療人として相応しい身嗜みとし、毎回出席を原則とする。 私語厳禁、携帯電話の使用を原則禁止する。

科目の目標	教科書にある重要な知識、技能を理解し修得する。
授業概要	各脱臼の整復法・固定法と各部位の診察法・徒手検査法を繰り返し練習する。

#### 日程

回数	授業内容
1	肩鎖関節脱臼（上方脱臼）の整復・固定法
2	肩鎖関節脱臼（上方脱臼）の整復・固定法
3	肩関節脱臼（前方脱臼）の整復・固定法
4	肩関節脱臼（前方脱臼）の整復・固定法
5	肘関節脱臼（後方脱臼）の整復・固定法
6	肘関節脱臼（後方脱臼）の整復・固定法
7	肘内障の整復法
8	PIP関節脱臼（背側脱臼）の整復・固定法
9	第1指MP関節脱臼（背側脱臼）の整復・固定法
10	頸部・脊柱の徒手検査法
11	総復習
12	総復習
13	定期試験①
14	定期試験②
15	解説
16	授業総括

科 目	柔道整復各論実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	石川 大樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	配布プリント、PPT スライド
成績評価	定期試験、出席状況で評価する。(欠席：-5点 遅刻：-3点)
留意事項	実習着着用、医療人として相応しい身嗜みとし、毎回出席を原則とする。 実技中、私語は厳禁。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。

科目の目標	骨折の転位をイメージすることができ、転位に対し理にかなった整復法・固定法が出来るようになる。
授業概要	各々が術者、患者、助手となり臨床現場を想定し整復法、固定法を行っていく。

日程

回数	授業内容
1	授業ガイダンス・骨折の転位理解と整復法(総論)
2	鎖骨骨折 — 整復法・固定法
3	上腕骨近位端骨折 — 整復法・固定法
4	上腕骨顆上骨折 — 整復法・固定法①
5	上腕骨顆上骨折 — 整復法・固定法②
6	前腕遠位端骨折 — 整復法・固定法①
7	前腕遠位端骨折 — 整復法・固定法②
8	前腕遠位端骨折 — 整復法・固定法③
9	手・指部の骨折 — 整復法・固定法①
10	手・指部の骨折 — 整復法・固定法②
11	手・指部の骨折 — 整復法・固定法③
12	手・指部の骨折 — 整復法・固定法④
13	総復習
14	定期試験①
15	定期試験②
16	試験解説、授業総括

科 目	柔道整復臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	3 (年間)
		時間数	64
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	宮内 淳一 他	教員区分	実務教員

教科書	「柔道整復・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	必要に応じて参考資料を配布する。
成績評価	レポート提出、出席状況、実習態度などで総合的に評価する。
留意事項	臨床実習要項を把握すること。

科目の目標	正確な鑑別能力を養いながら、基本的な臨床力を身に付けることを目的に学習する。
授業概要	臨床に必要な内容を理解した上で、臨床現場において実習を行う。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を活かして基本的な臨床力を身に付けさせる。

日程

回数	授業内容
1・2	<p>接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、            施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作</p>
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	

科 目	運動学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「運動学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	1. 運動学の概念を理解する。 2. 運動器の構造と機能を理解する。
授業概要	運動器・神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢と体幹の運動について学習する。

日程

回数	授業内容
1	運動器の構造と機能（骨の構造と機能・関節の構造と機能）
2	運動器の構造と機能（骨格筋の構造と機能）
3	神経の構造と機能（神経細胞）、神経の構造と機能（末梢神経①）
4	神経の構造と機能（末梢神経②）
5	神経の構造と機能（中枢神経）
6	運動感覚（感覚と知覚・運動感覚と運動の制御機構）
7	反射と随意運動（反射①）
8	反射と随意運動（反射②）
9	四肢と体幹の運動（上肢の運動①）
10	四肢と体幹の運動（上肢の運動②）、四肢と体幹の運動（下肢の運動①）
11	四肢と体幹の運動（下肢の運動②）
12	四肢と体幹の運動（体幹と脊柱の運動）
13	四肢と体幹の運動（頸椎の運動、胸椎と胸郭の運動）
14	四肢と体幹の運動（腰椎、仙椎および骨盤の運動、顔面と頭部の運動）
15	定期試験
16	試験解説とまとめ

科 目	病理学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	竹内 梨紗	教員区分	一般教員

教科書	「病理学概論 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	特になし。
成績評価	定期試験（用語の穴埋め問題と国家試験形式選択問題）で評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	病理学の基礎を理解し、国家試験の出題傾向を把握する。
授業概要	病理学の基礎を確認しながら国家試験出題基準に準じた内容を教科書に沿って進めていく。

日程

回数	授業内容
1	免疫の基本事項
2	細胞性免疫と液性免疫について
3	免疫異常の疾患・アレルギー5型について
4	腫瘍1 一般的性質 腫瘍細胞の特徴 良性腫瘍と悪性腫瘍の違い
5	腫瘍2 形態学的分類
6	腫瘍3 悪性腫瘍の特徴について
7	先天性異常1 遺伝情報の基本事項
8	先天性異常2 遺伝性疾患
9	先天性異常3 染色体異常による疾患・胎児障害
10	病因1
11	病因2
12	病因3
13	病因4
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括



科 目	一般臨床医学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	河内 和宏	教員区分	一般教員

教科書	「一般臨床医学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業内容は進行状況等で変更もありうる。

科目の目標	重要な疾患概念の把握と理解をする。
授業概要	教科書の項目を中心に解説する。

日程

回数	授業内容
1	主要な疾患（呼吸器疾患①）
2	主要な疾患（呼吸器疾患②、循環器疾患①）
3	主要な疾患（循環器疾患②）
4	主要な疾患（消化器疾患①）
5	主要な疾患（消化器疾患②）
6	主要な疾患（代謝疾患①）
7	主要な疾患（代謝疾患②）
8	主要な疾患（内分泌疾患）
9	主要な疾患（血液・造血器疾患）
10	主要な疾患（腎・泌尿器疾患）
11	主要な疾患（神経疾患①）
12	主要な疾患（神経疾患②）
13	主要な疾患（感染症）
14	主要な疾患（リウマチ・膠原病・アレルギー、環境要因による疾患）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	整形外科学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	柳澤 雅弘	教員区分	一般教員

教科書	「整形外科学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業内容は進行状況等で変更もありうる。

科日の目標	柔道整復師として診察に従事する上で必要な運動器疾患についての知識を習得する。
授業概要	代表的な運動器疾患について、その病態、症状、診断、治療等を概説する。

日程

回数	授業内容
1	骨、軟骨、関節の基礎
2	整形外科検査法
3	整形外科治療法
4	筋肉 運動路
5	感覚路
6	スポーツ外傷、骨折、コンパートメント症候群
7	骨腫瘍
8	軟部腫瘍
9	末梢神経（上肢）
10	末梢神経（下肢・首・肩）
11	頸椎、胸椎
12	腰椎
13	肩関節、肘
14	手関節および手指
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	基礎柔道実技Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	田中 誠人	教員区分	一般教員

教科書	特になし。
参考書	特になし。
成績評価	授業参加、実技試験にて評価する。
留意事項	実技中の安全管理。

科目の目標	精力善用、自他共栄の精神を学ぶ。 柔道整復師として基本的な柔道の心・技・体について理解する。 3年間で初段程度の習得を目指す。
授業概要	柔道における受身、立技、寝技への理解・技術発展。柔道の心を理解。

日程

回数	授業内容
1	立技の練習1 投の形の復習
2	立技の練習2 投の形の復習
3	立技の練習3 投の形の復習
4	立技の練習4 投の形の復習
5	立技の練習5 投の形の復習
6	立技の練習6 投の形の復習
7	立技の練習7 投の形の復習
8	立技の練習8 投の形の復習
9	立技の練習9 投の形の復習
10	立技の練習10 投の形の復習
11	認定実技に対応する乱取り練習1
12	認定実技に対応する乱取り練習2
13	認定実技に対応する乱取り練習3
14	実技試験練習
15	実技試験
16	まとめ

科 目	衛生学・公衆衛生学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	石垣 佳希	教員区分	一般教員

教科書	「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	項目ごとに理解する。

科目の目標	正確な知識を得ることにより幅広く公衆衛生を理解し、医療従事者としての基本的な医学を学ぶことで適切な保健医療活動を実践できる能力を養う。
授業概要	基本は教科書を用いるが、その都度ハンドアウトを配布する。

日程

回数	授業内容
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動
2	健康の概念
3	疾病予防と健康管理
4	感染症の予防
5	消毒
6	まとめ
7	定期試験
8	定期試験問題解答の解説

科 目	柔道整復学各論V	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	宮下 寧音	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	全出席すること。また、授業をただ聞いているだけにせず進んで内容理解に励むこと。

科目の目標	上肢の軟部組織損傷および疾患を学び、各論を理解する。各部位の機能解剖を学び、損傷の理解を深め症例に関する知識を習得していく。
授業概要	配布資料、板書、スライドにて進行する。適宜小テスト行い理解度の確認を行う。進行具合により授業内容を変更する。

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス、肩関節部の軟部組織損傷①
2	肩関節部の軟部組織損傷②
3	肩関節部の軟部組織損傷③、上腕部の軟部組織損傷
4	肩関節部の軟部組織損傷、上腕部の軟部組織損傷 復習
5	肘関節部の軟部組織損傷①
6	肘関節部の軟部組織損傷②
7	肘関節部の軟部組織損傷 復習
8	前腕部・手関節部の軟部組織損傷①
9	前腕部・手関節部の軟部組織損傷②
10	前腕部・手関節部の軟部組織損傷 復習
11	手部・指部の軟部組織損傷①
12	手部・指部の軟部組織損傷②
13	手部・指部の軟部組織損傷 復習
14	試験前 総復習
15	定期試験
16	解答解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論VI	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	神田 美樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	教科書(柔整理論・解剖学)を必ず持参する。 予習、復習を怠らない。

科目の目標	下肢の解剖を理解し、総論を基に各損傷について説明が出来ることを目標とする。
授業概要	プロジェクターを用いて説明する。

日程

回数	授業内容
1	骨盤骨骨折① (機能と解剖、骨盤骨単独骨折)
2	骨盤骨骨折② (骨盤輪骨折)
3	大腿骨骨折① (機能と解剖、大腿骨近位端部骨折)
4	大腿骨骨折② (大腿骨近位端部骨折)
5	大腿骨骨折③ (大腿骨骨幹部骨折)
6	大腿骨骨折④ (大腿骨遠位端部骨折)
7	大腿骨骨折⑤ (大腿骨遠位端部骨折)
8	膝蓋骨骨折
9	下腿骨骨折① (下腿骨近位端部の骨折)
10	下腿骨骨折② (下腿骨近位端部の骨折)
11	下腿骨骨折③ (下腿骨骨幹部骨折)
12	下腿骨骨折④ (下腿骨骨幹部骨折)
13	下腿骨骨折⑤ (下腿骨遠位端部骨折)
14	下腿骨骨折⑥ (下腿骨遠位端部骨折、足関節の脱臼骨折)
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論Ⅶ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	武島 千明	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	適宜資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全出席する。 2. 配布資料を各自管理し、整理する。 3. 不明な点はその都度質問し、自己研鑽に臨む。 4. 進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	1. 外傷が発生するメカニズム（下肢の骨折・脱臼）を理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の各論を教科書に沿って、資料プリントおよび板書、スライドにて進めていく。

日程

回 数	授業内容
1	足・趾部の機能と解剖
2	足・足指（趾）骨折①足根骨の骨折
3	足・足指（趾）骨折②中足骨・趾骨の骨折
4	まとめと要約1
5	股関節の機能と解剖
6	股関節脱臼①
7	股関節脱臼②
8	まとめと要約2
9	膝関節の機能と解剖
10	膝関節脱臼
11	足部の脱臼①横足根関節・足根中足関節
12	足部の脱臼②中足趾節関節・趾節間関節
13	まとめと要約3
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論Ⅷ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
実施学期	後期		
教員名	岩坪 弘之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全出席する。1回休むと授業についていけなくなる事を自覚する。 2. 不明な点があれば挙手をしてその都度質問し、復習はその週のうちに行う。 3. 進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	1. 外傷が発生するメカニズムを理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。 3. 各物理療法の使用法、適応と効果および注意と禁忌を理解する。
授業概要	各組織損傷の各論および後療法における物理療法を教科書に沿って配布プリント、板書にて進めていく。

日程

回数	授業内容
1	股関節の軟部組織損傷
2	大腿部の軟部組織損傷
3	膝関節部の軟部組織損傷①
4	膝関節部の軟部組織損傷②
5	膝関節部の軟部組織損傷③
6	下腿部の軟部組織損傷
7	足関節部の軟部組織損傷
8	足・趾部の軟部組織損傷①
9	足・趾部の軟部組織損傷②
10	物理療法① 分類、安全対策
11	物理療法② 電気療法
12	物理療法③ 温熱療法
13	物理療法④ 光線療法 寒冷療法
14	物理療法⑤ 牽引療法 その他
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括



科 目	柔道整復各論実技Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	藤原 和人	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	必要に応じて資料プリントを配布する。
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－5点 遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	実習着着用、医療人として相応しい身嗜みとし、毎回出席を原則とする。 私語厳禁、携帯電話の使用を原則禁止する。

科目の目標	教科書にある重要な知識、技能を理解し習得する。
授業概要	脱臼の整復法・固定法と各部位の診察法・徒手検査法を繰り返し練習する。

日程

回数	授業内容
1	顎関節脱臼の整復法・固定法
2	胸郭部の診察法・徒手検査法①
3	胸郭部の診察法・徒手検査法②
4	上肢部の診察法・徒手検査法①
5	上肢部の診察法・徒手検査法②
6	上肢部の診察法・徒手検査法③
7	超音波画像診断装置(エコー)の使用法・活用法
8	上肢部の診察法・徒手検査法④
9	上肢部の診察法・徒手検査法⑤
10	上肢部の診察法・徒手検査法⑥
11	上肢部の診察法・徒手検査法⑦
12	上肢部の診察法・徒手検査法⑧
13	総復習
14	定期試験①
15	定期試験②
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復各論実技Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	石川 大樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	配布プリント、PPT スライド
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点 遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	実習着着用、下穿き短パン、医療人として相応しい身なり服装、毎回出席を原則とする。

科目の目標	下肢外傷の理解、それぞれの外傷にあった整復法、固定法が行えるようになる。
授業概要	下肢骨折・脱臼の整復法、外傷における固定法を行う。

日程

回数	授業内容
1	大腿骨頸部・骨幹部骨折（搬送時固定法、整復法）
2	膝蓋骨骨折（固定法）
3	膝関節部損傷（固定法）
4	下腿骨骨幹部骨折、踵骨体部骨折①（固定法、短下肢ギプス、松葉杖歩行）
5	下腿骨骨幹部骨折、踵骨体部骨折②（固定法、短下肢ギプス、松葉杖歩行）
6	下腿骨骨幹部骨折、踵骨体部骨折③（固定法、短下肢ギプス、松葉杖歩行）
7	下腿骨骨幹部骨折、踵骨体部骨折④（整復法、固定法）
8	果部骨折①（整復法、固定法、ギプスシーネ）
9	果部骨折②（整復法、固定法、熱可塑性固定材）
10	果部骨折③（整復法、固定法、熱可塑性固定材）
11	第5中足骨基部骨折（整復法、固定法）
12	足趾の骨折（整復法、固定法）
13	股関節脱臼・膝蓋骨脱臼・足趾脱臼（整復法）、各種固定法復習
14	定期試験①
15	定期試験②
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復各論実技V	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	栗原 正道	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点 遅刻：－3点）、提出物で評価する。
留意事項	1. 毎回出席が原則。進行状況により授業内容を変更することがある。 2. 原則、参考資料の再配布は行わない。（必要な場合は再度配布する。） 3. 授業内容は進行状況等で変更もありうる。 4. 実習着を着用する。下肢の実技はハーフパンツまたは短パンで行う。

科目の目標	1. 各損傷に対する検査法の理解、及び技能を習得する。 2. 固定法の理解、及び技能を習得する。 3. 後療法の理解、及び技能を習得する。
授業概要	当科目では下肢の軟部組織損傷に対する実技を行う。各々が術者、患者、助手となり臨床の場を想定し検査法・固定法・後療法を行っていく。

日程

回数	授業内容
1	大腿部筋損傷
2	膝関節捻挫①
3	膝関節捻挫②
4	膝関節捻挫③
5	復習①
6	アキレス腱断裂①
7	アキレス腱断裂②
8	下腿三頭筋損傷
9	足関節捻挫①
10	足関節捻挫②
11	足関節捻挫③
12	復習②
13	定期試験①
14	定期試験②
15	解答、解説
16	授業総括

科 目	柔道整復臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	3 (年間)
		時間数	71
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	宮内 淳一 他	教員区分	実務教員

教科書	「柔道整復・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	適宜プリント資料を配布する。
成績評価	レポート提出、出席状況、実習態度などで総合的に評価する。
留意事項	臨床実習要綱を把握すること。

科目の目標	正確な鑑別能力を養いながら、基本的な臨床力を身に付けることを目標とする。
授業概要	臨床に必要な内容を理解した上で、臨床実習施設において臨床的な実習を行う。

実務経験	柔道整復の実務に5年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を活かして基本的な臨床力を身に付けさせる。

日程

回数	授業内容
1・2	接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、 施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定の補助、物理療法機器の操作
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	
33・34	臨地実習 (別途マニュアルを配布する。)
35・36	

科 目	整形外科学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	竹内 仁	教員区分	一般教員

教科書	「整形外科学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	指定なし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業内容は進行状況等で変更もあり得る。

科目の目標	柔道整復師として運動器疾患を扱ううえで整形外科学を十分に理解する。
授業概要	整形外科は別名「運動器外科」と言われるように各種運動器疾患を扱う科であり整形外科の扱う疾患の種類は多く、その中で代表的な運動器疾患について病態、診断、症状、治療などを概説する。

日程

回数	授業内容
1	疾患別各論（感染性疾患） 急性化膿性骨髄炎、プロディ骨膿瘍、骨関節結核
2	疾患別各論（骨及び軟部腫瘍） 悪性骨腫瘍、良性骨腫瘍
3	疾患別各論（骨及び軟部腫瘍） 悪性軟部腫瘍、良性軟部腫瘍
4	疾患別各論（非感染性軟部・骨関節疾患） 変形性関節症、関節リウマチ、痛風
5	疾患別各論（その他の関節炎、骨粗鬆症） 強直性脊椎炎、シャルコー関節、骨粗鬆症
6	疾患別各論（全身性の骨・軟部疾患） 軟骨無形成症、モルキオ病、くる病
7	疾患別各論（骨端症） ブラント病、セーバー病、フライバーグ病
8	疾患別各論（四肢循環障害） 末梢動脈疾患、深部静脈血栓、静脈瘤
9	疾患別各論（神経・筋疾患） 神経麻痺、絞扼性神経障害、腕神経叢損傷
10	疾患別各論（全身性神経・筋疾患） 脳性麻痺、脊髄腫瘍、脊髄損傷
11	身体部位別各論（骨盤及び下肢の疾患） 骨盤・股関節の骨折手術、骨盤・股関節の損傷
12	身体部位別各論（大腿・膝関節） 大腿・膝関節の骨折の手術、大腿・膝関節の損傷
13	身体部位別各論（下腿・足関節） 下腿・足関節の手術、下腿・足関節の損傷
14	身体部位別各論（足・足趾） 足・足趾の手術、足・足趾の損傷、足の変形
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	リハビリテーション医学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	小松 泰喜	教員区分	一般教員

教科書	「リハビリテーション医学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「見て知る リハビリテーション医学」丸善出版
成績評価	小テスト、定期試験で評価する。
留意事項	授業は教科書に沿って進めますので、事前に教科書を読んでから参加してください。

科目の目標	柔道整復師として必要なリハビリテーション医学（総論）の知識を学ぶ。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を理解する。</li> <li>・リハビリテーション医学の各種療法について学修し、理解する。</li> </ul>

#### 日程

回数	授業内容
1	リハビリテーションの概念・リハビリテーションの対象と障害者の実態
2	障害の階層とアプローチと障害者の実態（ICDとICIDH、ICIDHからICFへ・ICF-CY、ICFコアセット、WHODAS 2.0について）
3	リハビリテーション評価学（運動学と機能解剖、身体所見、小児運動発達の評価、ADLの評価、心理的評価、認知症の評価）
4	リハビリテーション評価学（電気生理学的検査、画像診断、運動失調）・リハビリテーション障害学（障害の評価、関節拘縮、関節の変形、筋萎縮）
5	リハビリテーション障害学（神経麻痺、痙縮、摂食嚥下障害、高次脳機能障害）・リハビリテーション治療学（障害の受容、廃用症候群、関節拘縮）
6	リハビリテーション治療学（リハビリ浮腫、筋力強化、慢性疼痛、中枢神経と痙縮、バイオフィードバック、歩行練習、全身運動、リスク管理）
7	リハビリテーション医学の関連職種（医師・リハビリテーション科専門医、理学療法士 他）・リハビリテーションの治療技術（理学療法、作業療法）
8	リハビリテーションの治療技術（言語聴覚療法、補装具）・高齢者のリハビリテーション（平均寿命と健康寿命、フレイル）
9	高齢者のリハビリテーション（認知症、高齢者虐待、パーキンソン病、脳卒中）・運動器のリハビリテーション（骨折の治療と後療法）
10	運動器のリハビリテーション（骨粗鬆症、捻挫へのアプローチ）
11	運動器のリハビリテーション（上肢損傷後症候群、下肢損傷後症候群）
12	運動器のリハビリテーション（頸肩腕症候群、腰痛症の病態とアプローチ、肋骨骨折、アキレス腱断裂へのアプローチ）
13	リハビリテーションと福祉（社会福祉、介護保険）・障害者スポーツ（障害者スポーツの概要、障害者スポーツの歴史、分類）
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説・まとめ

科 目	基礎柔道実技V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	
参考書	
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）、授業態度で評価する。
留意事項	実技中の安全管理に努めること。

科目の目標	柔道整復師としての基本的な柔道の心、技について理解する。 併せて認定実技審査に向けての柔道実技を習得する。
授業概要	受身、立技、寝技への理解・技術発展。柔道における精神・教えを習得させる。

日程

回数	授業内容
1	礼法1 受身1 投の形「浮落」 約束稽古1
2	礼法2 受身2 投の形「背負投」 約束稽古2
3	礼法3 受身3 投の形「肩車」 約束稽古3
4	礼法4 受身4 投の形「浮腰」 約束稽古4
5	礼法5 受身5 投の形「払腰」 約束稽古5
6	礼法6 受身6 投の形「釣込腰」 約束稽古6
7	礼法7 受身7 投の形「送足払」 約束稽古7
8	礼法8 受身8 投の形「支釣込足」 約束稽古8
9	礼法9 受身9 投の形「内股」 約束稽古9
10	総合練習1
11	総合練習2
12	総合練習3
13	総合練習4
14	総合練習5
15	実技試験
16	試験解説、まとめ

科 目	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	石垣 佳希	教員区分	一般教員

教科書	「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	適宜参考資料を配布する。
成績評価	中間テスト①20%、中間テスト②20%、定期試験 60%で評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	超高齢社会を迎え、医療従事者として一般医学の知識習得および公衆衛生の推進者として保健医療活動の実践能力養成を目標とする。
授業概要	基本的にスライド、ハンドアウトを用いる。

日程

回数	授業内容
1	環境衛生（環境保健）：環境問題、環境要因、喫煙と健康、大気汚染
2	生活環境：水の衛生・水質汚染
3	食品衛生活動：栄養改善活動、廃棄物処理
4	医療倫理と医療安全、疫学：公衆衛生活動と倫理、医療事故、疫学の意義、調査方法
5	中間テスト①、解説
6	母子保健：ライフサイクルと母子保健、母子保健の指標
7	学校保健：学校保健の意義、学校保健対策、保健教育
8	産業保健：産業保健の目的、労働災害、職業病
9	成人・高齢者保健：各種疾患の病態、認知症高齢者保健対策、介護保険
10	精神保健：精神の病気、精神保健活動
11	地域保健と国際保健：地域保健活動、保健に関する国際協力と世界保健機関
12	衛生行政と保健医療制度：衛生行政の概要、医療保険
13	中間テスト②、解説
14	1回～13回までのまとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括



科 目	関係法規	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	藤木 裕樹	教員区分	一般教員

教科書	「関係法規 2024年版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	資料を配布する。
成績評価	定期試験、小テストで評価する。
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100%の出席を目指す。</li> <li>2. 予習、復習を怠らない。</li> <li>3. 授業中、私語は絶対しない。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。</li> <li>4. ノート又は資料にメモをとること。</li> </ol>

科目の目標	柔道整復師として必要な法の概念を理解する。各事項を確実に理解し国家試験への学力・理解力を養う。
授業概要	柔道整復師法を中心にその他の法を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	序論：法の意義・体系、柔道整復師および柔道整復に関する法規、柔道整復師と患者の権利
2	柔道整復師法の目的、柔道整復師・施術所の定義
3	柔道整復師免許に関する要件・申請・手続
4	柔道整復師免許に関する要件・申請・手続と施術所について
5	柔道整復師の国家試験と業務
6	広告・名称の制限、罰則、各機関
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	社会保障制度	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	藤木 裕樹	教員区分	一般教員

教科書	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	資料を配布する。
成績評価	定期試験、小テストで評価する。
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100%の出席を目指す。</li> <li>2. 予習、復習を怠らない。</li> <li>3. 授業中、私語は絶対しない。不明な点があれば挙手をしてその都度質問すること。</li> <li>4. ノート又は資料にメモをとること。</li> </ol>

科目の目標	わが国における医療保険制度や医療経済の現状に関する知識を深める。
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 柔道整復師に関係の深い社会保障制度の基本を学ぶ。</li> <li>2. 柔道整復師業務における療養費の支給申請について学ぶ。</li> </ol>

日程

回数	授業内容
1	わが国の社会保障1（社会保障とは、社会保障制度とは）
2	わが国の社会保障2（医療保険制度とは）
3	わが国の社会保障3（診療報酬制度とは）
4	柔道整復師業務における療養費1（療養費制度の概要）
5	柔道整復師業務における療養費2（療養費の推移）
6	柔道整復師業務における療養費3（療養費の算定）
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	臨床柔道整復学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	長島 茂之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 教科書を持参すること。 2. 復習を心がけること。 3. 不明な点があれば授業中や授業の終わりに質問すること。

科目の目標	柔道整復学理論（総論）を学習し、各論に繋がる知識を更に深め理解する。
授業概要	・スライドや資料を使い教科書の解説を行う。 ・柔道整復学理論（総論）の問題演習を行い、重要な点の解説を行う。

日程

回数	授業内容
1	人体に加わる力・骨の損傷①、問題演習 1
2	骨の損傷②、問題演習 2
3	骨の損傷③、問題演習 3
4	骨の損傷④、問題演習 4
5	骨の損傷⑤、問題演習 5
6	関節の損傷①、問題演習 6
7	関節の損傷②、問題演習 7
8	関節の損傷③、問題演習 8
9	筋の損傷、問題演習 9
10	腱の損傷、問題演習 10
11	末梢神経の損傷、問題演習 11
12	診察、問題演習 12
13	整復法、問題演習 13
14	外傷予防、問題演習 14
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学総合 I ①	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (前期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。予習復習を欠かさないこと。ノートを用意すること。

科目の目標	柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。
授業概要	授業は講義形式で行う。適宜小テストをする。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復学 基礎的知識 1
2	柔道整復学 基礎的知識 2
3	柔道整復学 基礎的知識 3
4	柔道整復学 基礎的知識 4
5	柔道整復学 基礎的知識 5
6	柔道整復学 基礎的知識 6
7	柔道整復学 基礎的知識 7
8	柔道整復学 基礎的知識 8
9	柔道整復学 基礎的知識 9
10	柔道整復学 基礎的知識 10
11	柔道整復学 基礎的知識 11
12	柔道整復学 基礎的知識 12
13	柔道整復学 基礎的知識 13
14	柔道整復学 基礎的知識 14
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学総合 I ②	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (前期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を再確認する授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が診察をする際に必要な応用的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し柔道整復師として必要な知識レベルを確認する。また重点的に理解しなくてはならない内容を確認する。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復学 総論 応用復習1
2	柔道整復学 総論 応用復習2
3	柔道整復学 総論 応用復習3
4	柔道整復学 総論 応用復習4
5	柔道整復学 総論 応用復習5
6	柔道整復学 総論 応用復習6
7	柔道整復学 総論 応用復習7
8	柔道整復学 総論 応用復習8
9	柔道整復学 総論 応用復習9
10	柔道整復学 総論 応用復習10
11	柔道整復学 総論 応用復習11
12	柔道整復学 総論 応用復習12
13	柔道整復学 総論 応用復習13
14	柔道整復学 総論 応用復習14
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	柔道整復学総合 I ③	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (前期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	岩坪 弘之	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「第22回～第31回 徹底攻略 国家試験過去問題集」医道の日本社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を再確認する授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を参考にしながら、柔道整復師として必要な知識レベルと重点的に理解しなくてはならない内容を確認する。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復学 臨床的知識 1
2	柔道整復学 臨床的知識 2
3	柔道整復学 臨床的知識 3
4	柔道整復学 臨床的知識 4
5	柔道整復学 臨床的知識 5
6	柔道整復学 臨床的知識 6
7	柔道整復学 臨床的知識 7
8	柔道整復学 臨床的知識 8
9	柔道整復学 臨床的知識 9
10	柔道整復学 臨床的知識 10
11	柔道整復学 臨床的知識 11
12	柔道整復学 臨床的知識 12
13	柔道整復学 臨床的知識 13
14	柔道整復学 臨床的知識 14
15	定期試験
16	試験解説

科 目	柔道整復学総合 I ④	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (前期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験と小テストで評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。予習復習を欠かさないこと。ノートを用意すること。

科目の目標	柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	授業は講義形式で行う。適宜小テストをする。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復学 組織損傷 各論復習 1
2	柔道整復学 組織損傷 各論復習 2
3	柔道整復学 組織損傷 各論復習 3
4	柔道整復学 組織損傷 各論復習 4
5	柔道整復学 組織損傷 各論復習 5
6	柔道整復学 組織損傷 各論復習 6
7	柔道整復学 組織損傷 各論復習 7
8	柔道整復学 組織損傷 各論復習 8
9	柔道整復学 組織損傷 各論復習 9
10	柔道整復学 組織損傷 各論復習 10
11	柔道整復学 組織損傷 各論復習 11
12	柔道整復学 組織損傷 各論復習 12
13	柔道整復学 組織損傷 各論復習 13
14	柔道整復学 組織損傷 各論復習 14
15	定期試験
16	試験解説

科 目	柔道整復応用実技Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「認定実技審査要領 令和4年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	実習着を着用し、爪、装飾品などの身嗜みに留意すること。

科目の目標	理論で学んだ内容を実技に取り入れながら学習し、臨床に応用できる技術を習得する。
授業概要	認定実技審査の課題を中心に実技実習を行い、理論と実技の組合せで理解力を深める。

日程

回数	授業内容
1	第2指PIP関節背側脱臼の固定〔アルミ副子背側固定〕
2	第5中手骨頸部骨折の固定〔アルミ副子掌側固定〕
3	鎖骨骨折の固定〔Sayre テープ固定〕
4	肩鎖関節上方脱臼の固定〔ロバート・ジョーンズ固定〕
5	肩関節前方脱臼の固定〔局所副子、三角巾固定〕
6	肘関節後方脱臼の固定〔クラーメル副子、三角巾固定〕
7	コーレス骨折の固定〔クラーメル副子、局所副子、三角巾固定〕
8	上腕骨骨幹部骨折の固定〔ミッデルドルフ三角副子固定〕
9	アキレス腱断裂の固定〔クラーメル副子固定〕
10	下腿骨骨幹部骨折の固定〔クラーメル副子固定〕
11	足関節外側靭帯損傷〔局所副子固定〕
12	肋骨骨折の固定〔さらしと厚紙副子固定〕
13	総復習
14	定期試験①
15	定期試験②
16	定期試験解説、まとめ



科 目	柔道整復応用実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	関口 将一	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「認定実技審査要領 令和4年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	認定実技審査項目を学習し、診察法・固定法・検査法のスキルアップを図り臨床に必要な技術と知識を身に付ける。
授業概要	認定実技審査項目に沿って授業項目を選別していく。

#### 日程

回数	授業内容
1	鎖骨定型的骨折の診察及び整復
2	上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復
3	コーレス骨折の診察及び整復
4	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復
5	肩関節前方烏口下脱臼の診察及び整復
6	肘関節後方脱臼の診察及び整復
7	肘内障の診察及び整復
8	肩腱板損傷の診察及び検査法
9	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査法
10	復習①（整復法）
11	復習②（整復法）
12	復習③（検査法）
13	総復習
14	定期試験①
15	定期試験②
16	試験解説、授業総括

科 目	柔道整復応用実技Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「認定実技審査要領 令和4年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）、授業態度で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	認定実技審査項目を学習し、診察法・固定法・検査法の技術向上を図り臨床に必要な技術と知識を身に付ける。
授業概要	認定実技審査項目に沿って授業項目を選別していく。

日程

回数	授業内容
1	膝関節側副靭帯損傷（絆創膏固定）
2	足関節外側靭帯損傷①（絆創膏固定）
3	足関節外側靭帯損傷①（絆創膏固定）
4	絆創膏固定まとめ
5	ハムストリングス損傷
6	大腿四頭筋打撲
7	膝関節側副靭帯損傷
8	膝関節十字靭帯損傷
9	膝関節半月板損傷
10	下腿三頭筋損傷
11	復習
12	復習
13	定期試験①
14	定期試験②
15	試験解説
16	授業総括

科 目	柔道整復臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1 (前期)
		時間数	45
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	岩坪 弘之 他	教員区分	実務教員

教科書	「柔道整復・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	レポート提出、出席状況、授業態度などで総合的に評価を行う。
留意事項	臨床実習要綱を把握すること。

科目の目標	正確な鑑別能力を養いながら、基本的な臨床力を身に付けることを目的に学習する。
授業概要	臨床に必要な内容を理解した上で、附属施術所において臨床的な授業を行う。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を活かして、学生に基本的な臨床力を身に付けさせる。

日程

回数	授業内容
1・2	臨床模擬、問診～初期施術法、後療法の組み立て、接骨院受付業務、患者誘導、施術準備、施術補助、物理療法機器操作、 血圧測定・体力測定補助、ロールプレイング
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	

科 目	柔道整復術の適応	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	竹内 仁	教員区分	一般教員

教科書	「医療の中の柔道整復」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「整形外科学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	特になし。

科目の目標	柔道整復術の適否を判断することができるようになる。
授業概要	教科書等、適宜パワーポイントや視覚教材を用いる。必要に応じてプリントを配布する。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復師の適否を考える；施術の適応と判断、症状と所見
2	損傷に類似した症状を示す疾患1；内臓疾患の投影を疑う疼痛
3	損傷に類似した症状を示す疾患2；見逃してはいけない整形外科疾患
4	損傷に類似した症状を示す疾患3；肝臓疾患、腰痛、化膿性疾患、軟部組織損傷
5	血流障害を伴う損傷
6	末梢神経損傷を伴う損傷
7	脱臼骨折、病的骨折及び脱臼 外出血を伴う損傷
8	意識障害を伴う損傷
9	脊髄症状のある損傷
10	呼吸運動障害を伴う損傷
11	高エネルギー外傷；外傷性ショック、DIC、FES、DVT、PTE
12	柔道整復師が知っておくべき各種画像検査；医用画像総論 X線、CT、MRI、超音波等
13	定期試験
14	解答と解説
15	まとめ1
16	まとめ2 授業総括

科 目	基礎柔道実技VI	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	特になし。
参考書	特になし。
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）、授業態度で評価する。
留意事項	実技中の安全管理に努めること。

科目の目標	柔道整復師としての基本的な柔道の心、技について理解する。 併せて認定実技審査に向けての柔道実技を習得する。
授業概要	受身、立技、寝技への理解・技術発展。柔道における精神・教えを習得させる。

日程

回数	授業内容
1	受身 約束乱取
2	礼法1 投の形1（手技） 約束乱取1
3	礼法2 投の形2（腰技） 約束乱取2
4	礼法3 投の形3（足技） 約束乱取3
5	柔道の歴史1
6	柔道の歴史2
7	柔道の理念1
8	柔道の理念2
9	柔道の教育的効果1
10	柔道の教育的効果2
11	総合練習1
12	総合練習2
13	実技試験
14	試験解説
15	柔道の歴史3
16	授業総括

科 目	職業倫理	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	藤木 裕樹	教員区分	一般教員

教科書	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「関係法規2024年版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社 柔道整復師受領委任規程に関する資料
成績評価	定期試験、小テストで評価する。
留意事項	全出席を目指す。

科目の目標	医療従事者としての心得を認識する。
授業概要	柔道整復師法や柔道整復師受領委任規程を中心に学習する。

日程

回数	授業内容
1	職業倫理1（医療従事者の職業倫理、受領委任規程①）
2	職業倫理2（柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応と権利、受領委任規程②）
3	職業倫理3（インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント、受領委任規程③）
4	職業倫理4（医療従事者の守秘義務、受領委任規程④）
5	職業倫理5（柔道整復師の社会的責任と対応、受領委任規程⑤）
6	職業倫理6（医療における情報と責任、受領委任規程⑥）
7	定期試験
8	解答解説

科 目	柔道整復学総論 V	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	藤木 裕樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	資料を配布する。
成績評価	定期試験、小テストで評価する。
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全出席を目指す。</li> <li>2. 予習や各授業内容を理解し復習を心がける。</li> <li>3. 授業中の私語は慎み、不明な点があれば挙手にて質問する。</li> <li>4. 進行状況により授業内容を変更することがある。</li> </ol>

科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 柔道整復学の総論、各論の知識を習得し、併せて医療者としての心得を認識する。</li> <li>2. 卒業後の即戦力となる為に必要な知識を身につける。</li> </ol>
授業概要	総合的な復習を行う。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復学総論 ( 外傷の保存療法 指導管理 1 )
2	柔道整復学総論 ( 外傷の保存療法 指導管理 2 )
3	柔道整復学総論 ( 外傷の保存療法 指導管理 3 )
4	柔道整復学総論 ( 外傷の保存療法 外傷予防 1 )
5	柔道整復学総論 ( 外傷の保存療法 外傷予防 2 )
6	柔道整復学総論 ( 外傷の保存療法 外傷予防 3 )
7	柔道整復学総論 ( 頭部体幹損傷復習 1 )
8	柔道整復学総論 ( 頭部体幹損傷復習 2 )
9	柔道整復学総論 ( 頭部体幹損傷復習 3 )
10	柔道整復学総論 ( 頭部体幹損傷復習 4 )
11	柔道整復学総論 ( 頭部体幹損傷復習 5 )
12	柔道整復学総論 ( 頭部体幹損傷復習 6 )
13	定期試験
14	定期試験解説
15	授業総復習 1
16	授業総復習 2

科 目	臨床柔道整復学Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	国家試験過去問題資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	臨床において重要な知識を習得するため、欠席しないこと。

科目の目標	柔道整復師が臨床に必要な知識を習得し、かつ基礎医学との関連を確認し、的確な医療面接やインフォームド・コンセントが行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し柔道整復師として必要な知識レベルを確認する。また重点的に理解しなくてはいけない内容を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	上肢各論復習 1
2	上肢各論復習 2
3	上肢各論復習 3
4	上肢各論復習 4
5	上肢各論復習 5
6	上肢各論復習 6
7	上肢各論復習 7
8	上肢各論復習 8
9	上肢各論復習 9
10	上肢各論復習 10
11	上肢各論復習 11
12	上肢各論復習 12
13	定期試験
14	解答と解説
15	総復習①
16	総復習②



科 目	臨床柔道整復学Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	国家試験過去問題資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	臨床において重要な知識を習得するため、欠席しないこと。

科目の目標	柔道整復師が臨床に必要な知識を習得し、かつ基礎医学との関連を確認し、的確な医療面接やインフォームド・コンセントが行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し柔道整復師として必要な知識レベルを確認する。また重点的に理解しなくてはいけない内容を確認する。

日程

回数	授業内容
1	下肢各論復習 1
2	下肢各論復習 2
3	下肢各論復習 3
4	下肢各論復習 4
5	下肢各論復習 5
6	下肢各論復習 6
7	下肢各論復習 7
8	下肢各論復習 8
9	下肢各論復習 9
10	下肢各論復習 10
11	下肢各論復習 11
12	下肢各論復習 12
13	定期試験
14	解答と解説
15	総復習
16	授業総括

科 目	臨床柔道整復学Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	国家試験過去問題資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	臨床において重要な知識を習得するため、欠席しないこと。

科目の目標	柔道整復師が臨床に必要な知識を習得し、かつ基礎医学との関連を確認し、的確な医療面接やインフォームド・コンセントが行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し柔道整復師として必要な知識レベルを確認する。また重点的に理解しなくてはならない内容を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	総論復習 1
2	総論復習 2
3	総論復習 3
4	総論復習 4
5	総論復習 5
6	各論復習 1
7	各論復習 2
8	各論復習 3
9	各論復習 4
10	各論復習 5
11	各論復習 6
12	各論復習 7
13	定期試験
14	解答と解説
15	総復習①
16	総復習②

科 目	臨床柔道整復学V	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	長島 茂之	教員区分	一般教員

教科書	「施術の適応と医用画像の理解」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 教科書を持参する。 2. 復習を心がける。 3. 不明な点があれば授業中や授業の終わりに質問すること。

科目の目標	柔道整復術の適応について学び、医用画像について理解し、安全に柔道整復術を提供するための知識や判断能力を習得する。 柔道整復学を中心に問題演習を行い、深く理解する。
授業概要	プロジェクターによるスライド、資料を使い教科書の解説を行う。 関連事項の問題演習を行う。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否を考える 問題演習 1
2	損傷に類似した症状を示す疾患 1 問題演習 2
3	損傷に類似した症状を示す疾患 2 問題演習 3
4	血流障害を伴う損傷 問題演習 4
5	末梢神経損傷を伴う損傷 1 問題演習 5
6	末梢神経損傷を伴う損傷 2 問題演習 6
7	脱臼骨折 問題演習 7
8	外出血を伴う損傷 1 問題演習 8
9	外出血を伴う損傷 2 / 病的骨折および脱臼 問題演習 9
10	意識障害を伴う損傷 問題演習 10
11	脊髄症状のある損傷 問題演習 11
12	呼吸運動障害を伴う損傷 問題演習 12
13	定期試験
14	解答と解説 問題演習 13
15	内臓損傷の合併が疑われる損傷 / 高エネルギー外傷 問題演習 14
16	医用画像の理解 / まとめ 問題演習 15

科 目	柔道整復学総合Ⅱ①	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (後期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	岩坪 弘之	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「病理学概論 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「2025 第23回～第32回 徹底攻略！国家試験過去問題集」医道の日本社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を身に付ける授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が診察をする際に必要な基礎的知識を身につけ、医療面接や鑑別診断を的確に行えるようになる。
授業概要	国家試験過去問題を使用し柔道整復師として必要な知識レベルを確認する。また重点的に理解しなくてはいけない内容を確認する。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復学 基礎演習1
2	柔道整復学 基礎演習2
3	柔道整復学 基礎演習3
4	柔道整復学 基礎演習4
5	柔道整復学 基礎演習5
6	柔道整復学 基礎演習6
7	柔道整復学 基礎演習7
8	柔道整復学 基礎演習8
9	柔道整復学 基礎演習9
10	柔道整復学 基礎演習10
11	柔道整復学 基礎演習11
12	柔道整復学 基礎演習12
13	定期試験
14	解答と解説
15	まとめ①
16	まとめ②

科 目	柔道整復学総合Ⅱ②	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (後期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	関 凌眞	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	国家試験過去問題資料を配布する。
成績評価	10回行う小テスト(5割)と定期試験(5割)で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を身に付ける授業なので欠席しないこと。

科目の目標	柔道整復師が治療をする際に必要な応用的知識を身につけ、医療面接や鑑別診断を的確に行えるようになる。
授業概要	国家試験過去問題を使用し、柔道整復師として必要な知識を確認、理解する。

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス
2	柔道整復学 応用演習2 小テスト
3	柔道整復学 応用演習3 小テスト
4	柔道整復学 応用演習4 小テスト
5	柔道整復学 応用演習5 小テスト
6	柔道整復学 応用演習6 小テスト
7	柔道整復学 応用演習7 小テスト
8	柔道整復学 応用演習8 小テスト
9	柔道整復学 応用演習9 小テスト
10	柔道整復学 応用演習10 小テスト
11	柔道整復学 応用演習11 小テスト
12	柔道整復学 応用演習12
13	定期試験
14	試験解説
15	まとめ①
16	まとめ②

科 目	柔道整復学総合Ⅱ③	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (後期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	田中 敦・藤木 裕樹	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	「2025 第23回～第32回 徹底攻略！国家試験過去問題集」医道の日本社
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	柔道整復師としての基礎的な知識を再確認する授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につけ、医療面接や鑑別診断を的確に行えるようになる。柔道整復師として必要な法の概念を理解する。わが国における医療保険制度や医療経済の現状に関する知識を深める。
授業概要	国家試験過去問題を使用し、柔道整復師として必要な知識レベルと重点的に理解しなくてはいけない内容を確認する。

日程

回数	授業内容	
1	柔道整復学 運動器障害 各論復習1	(田中)
2	柔道整復学 運動器障害 各論復習2	(田中)
3	柔道整復学 運動器障害 各論復習3	(田中)
4	柔道整復学 運動器障害 各論復習4	(田中)
5	柔道整復学 運動器障害 各論復習5	(田中)
6	柔道整復学 運動器障害 各論復習6	(田中)
7	柔道整復学 運動器障害 各論復習7	(田中)
8	柔道整復学 運動器障害 各論復習8	(田中)
9	関係法規復習1	(藤木)
10	関係法規復習2	(藤木)
11	社会保障制度復習1	(藤木)
12	社会保障制度復習2	(藤木)
13	定期試験	(藤木)
14	試験解説	(藤木)
15	関係法規、社会保障制度の総復習1	(藤木)
16	関係法規、社会保障制度の総復習2	(藤木)

科 日	柔道整復学総合Ⅱ④	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (後期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	関 凌眞	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	国家試験過去問題資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を身に付ける授業なので欠席しないこと。

科目の目標	柔道整復師が治療をする際に必要な応用的知識を身につけ、医療面接や鑑別診断を的確に行えるようになる。
授業概要	国家試験過去問題を使用し、柔道整復師として必要な知識を確認、理解する。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復学 応用演習 1
2	柔道整復学 応用演習 2
3	柔道整復学 応用演習 3
4	柔道整復学 応用演習 4
5	柔道整復学 応用演習 5
6	柔道整復学 応用演習 6
7	柔道整復学 応用演習 7
8	柔道整復学 応用演習 8
9	柔道整復学 応用演習 9
10	柔道整復学 応用演習 10
11	柔道整復学 応用演習 11
12	柔道整復学 応用演習 12
13	定期試験
14	試験解説
15	まとめ①
16	まとめ②

科 目	柔道整復応用実技Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	関口 将一・武島 千明	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
参考書	「柔道整復師と機能訓練指導」全国柔道整復学校協会監修 南江堂、配布資料		
成績評価	定期試験、出欠席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）で評価する。		
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。		

科目の目標	理論で学んだ内容を実技に取り入れながら学習し、臨床に応用できる技術を習得する。 高齢者の外傷予防を学び、高齢者への理解を深め、臨床の場で役立つ知識を習得する。		
授業概要	お互いに術者、患者、助手となり診察・整復・検査を繰り返し練習する。 高齢者の特性について学び、機能訓練指導員の基礎的知識を学ぶ。		

日程

回数	授業内容	
1	鎖骨定型的骨折・コーレス骨折 診察および整復	(関口)
2	上腕骨外科頸骨折 診察および整復	(関口)
3	肩鎖関節上方脱臼・肩関節前方脱臼 診察および整復	(関口)
4	肘関節後方脱臼・肘内障 診察および整復	(関口)
5	腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷 診察および整復	(関口)
6	高齢者の外傷予防1 機能訓練について①	(武島)
7	高齢者の外傷予防2 機能訓練について②	(武島)
8	高齢者の外傷予防3 介護保険について①	(武島)
9	高齢者の外傷予防4 介護保険について②	(武島)
10	高齢者の外傷予防5 介護保険について③	(武島)
11	高齢者の外傷予防6 機能訓練で用いる体操	(武島)
12	定期試験1 口頭試問	(武島)
13	定期試験2 口頭試問	(武島)
14	高齢者の外傷予防7 機能訓練運動プログラム①	(武島)
15	高齢者の外傷予防8 機能訓練運動プログラム②	(武島)
16	授業総括 まとめ	(武島)



科 目	柔道整復応用実技V	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「競技者の外傷予防」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「認定実技審査要領 令和4年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）、授業態度で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	理論で学んだ内容を、実技に取り入れながら学習し、臨床に応用できる技術を習得する。
授業概要	認定実技審査の課題を中心に行い、理論と実技の組合せで理解力を深める。 競技者が実際行うトレーニングやエクササイズを体験する。

日程

回数	授業内容
1	下肢軟部組織損傷 検査法1
2	下肢軟部組織損傷 検査法2
3	下肢軟部組織損傷 固定法1
4	下肢軟部組織損傷 固定法2
5	検査・整復法 復習
6	競技者の外傷予防1
7	競技者の外傷予防2
8	競技者の外傷予防3
9	競技者の外傷予防4
10	競技者の外傷予防5
11	競技者の外傷予防6
12	定期試験1
13	定期試験2
14	試験解説
15	競技者の外傷予防7
16	授業総括

科 目	柔道整復応用実技VI	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「認定実技審査要領 令和4年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	理論で学んだ内容を実技に取り入れながら学習し、臨床に応用できる技術を習得する。また臨床の場で必要となる後療法の基礎を習得する。
授業概要	認定実技審査の課題を中心に実技実習を行い、理論と実技の組合せで理解力を深める。お互いに施術者、患者となり後療法を繰り返し練習する。

日程

回数	授業内容
1	第2指 PIP 関節背側脱臼 第5中手骨頸部骨折 鎖骨骨折 肩鎖関節上方脱臼 固定
2	肩関節前方脱臼 コーレス骨折 上腕骨骨幹部骨折 肘関節後方脱臼 固定
3	アキレス腱断裂 下腿骨骨幹部骨折 肋骨骨折 足関節外側靭帯損傷 固定
4	固定 総復習
5	後療法1
6	後療法2
7	後療法3
8	後療法4
9	後療法5
10	後療法6
11	後療法7
12	復習
13	実技試験
14	試験解説
15	後療法8
16	授業総括